

有価証券報告書

第140期

自 平成 17 年 4 月 1 日
至 平成 18 年 3 月 31 日

スズキ株式会社

(363031)

本書は、E D I N E T (Electronic Disclosure for Investors NETwork) システムを利用して金融庁に提出した有価証券報告書の記載事項を、P D F ファイルとして作成したものである。

E D I N E T による提出書類は一部の例外を除きH T M L ファイルとして作成することとされており、当社ではワードプロセッサファイルの元データをH T M L ファイルに変換することにより提出書類を作成している。

本書はその変換直前のワードプロセッサファイルを原版として作成されたものである。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部【企業情報】	2
第1【企業の概況】	2
1【主要な経営指標等の推移】	2
2【沿革】	4
3【事業の内容】	5
4【関係会社の状況】	7
5【従業員の状況】	14
第2【事業の状況】	15
1【業績等の概要】	15
2【生産、受注及び販売の状況】	17
3【対処すべき課題】	18
4【事業等のリスク】	19
5【経営上の重要な契約等】	21
6【研究開発活動】	22
7【財政状態及び経営成績の分析】	24
第3【設備の状況】	28
1【設備投資等の概要】	28
2【主要な設備の状況】	29
3【設備の新設、除却等の計画】	31
第4【提出会社の状況】	32
1【株式等の状況】	32
(1)【株式の総数等】	32
(2)【新株予約権等の状況】	32
(3)【発行済株式総数、資本金等の推移】	33
(4)【所有者別状況】	33
(5)【大株主の状況】	34
(6)【議決権の状況】	35
(7)【ストックオプション制度の内容】	35
2【自己株式の取得等の状況】	36
3【配当政策】	37
4【株価の推移】	37
5【役員の状況】	38
6【コーポレート・ガバナンスの状況】	41
第5【経理の状況】	44
1【連結財務諸表等】	45
(1)【連結財務諸表】	45
(2)【その他】	78
2【財務諸表等】	79
(1)【財務諸表】	79
(2)【主な資産及び負債の内容】	99
(3)【その他】	101
第6【提出会社の株式事務の概要】	102
第7【提出会社の参考情報】	103
1【提出会社の親会社等の情報】	103
2【その他の参考情報】	103
第二部【提出会社の保証会社等の情報】	104

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 証券取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成18年6月30日

【事業年度】 第140期(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

【会社名】 スズキ株式会社

【英訳名】 SUZUKI MOTOR CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役 鈴木 修

【本店の所在の場所】 静岡県浜松市高塚町300番地

【電話番号】 053 - 440 - 2904

【事務連絡者氏名】 財務部長 中村 邦夫

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区大京町23番2
当社東京支店

【電話番号】 03 - 3356 - 2501

【事務連絡者氏名】 常務役員 東京支店長 彌吉 正文

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第136期	第137期	第138期	第139期	第140期
決算年月	平成14年3月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月	平成18年3月
売上高 (百万円)	1,668,251	2,015,309	2,198,986	2,365,571	2,746,453
経常利益 (百万円)	52,318	79,188	95,248	109,532	119,321
当期純利益 (百万円)	22,392	31,024	43,835	60,506	65,945
純資産額 (百万円)	620,004	648,357	692,345	745,016	616,770
総資産額 (百万円)	1,347,718	1,537,430	1,577,709	1,693,353	1,849,714
1株当たり純資産額 (円)	1,145.94	1,208.42	1,291.28	1,398.78	1,397.11
1株当たり当期純利益 (円)	41.40	57.29	81.38	112.94	125.64
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	41.16	55.57	79.17	109.86	122.14
自己資本比率 (%)	46.0	42.2	43.9	44.0	33.3
自己資本利益率 (%)	3.7	4.9	6.5	8.4	9.7
株価収益率 (倍)	36.7	23.8	19.9	17.0	21.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	106,785	146,075	134,574	212,427	240,043
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	147,580	98,365	140,979	126,102	104,215
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	10,879	34,808	38,886	44,058	160,725
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	223,017	238,743	188,259	231,397	216,623
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	29,695 (2,538)	39,127 (6,447)	38,493 (8,836)	39,454 (11,204)	40,798 (13,755)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれていない。

2 第137期から「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用している。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第136期	第137期	第138期	第139期	第140期
決算年月	平成14年 3月	平成15年 3月	平成16年 3月	平成17年 3月	平成18年 3月
売上高 (百万円)	1,320,218	1,411,418	1,392,688	1,481,632	1,690,169
経常利益 (百万円)	31,177	51,108	55,334	52,936	52,179
当期純利益 (百万円)	13,912	19,393	25,650	35,747	37,271
資本金 (百万円)	119,736	120,210	120,210	120,210	120,210
発行済株式総数 (株)	541,082,074	542,647,091	542,647,091	542,647,091	542,647,091
純資産額 (百万円)	477,053	483,670	518,198	540,890	364,127
総資産額 (百万円)	1,028,709	1,070,708	1,039,261	1,098,073	1,082,344
1株当たり純資産額 (円)	881.73	901.29	966.29	1,015.33	824.48
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	8.50 (4.00)	9.00 (4.00)	9.00 (4.00)	10.00 (4.00)	11.00 (5.00)
1株当たり当期純利益 (円)	25.72	35.67	47.46	66.56	70.78
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	25.59	34.61	46.17	64.75	68.82
自己資本比率 (%)	46.4	45.2	49.9	49.3	33.6
自己資本利益率 (%)	2.9	4.0	5.1	6.8	8.2
株価収益率 (倍)	59.1	38.2	34.1	28.8	38.2
配当性向 (%)	33.0	25.2	19.0	15.0	15.5
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	11,055	10,867	10,731	10,604 (1,394)	10,972 (2,256)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれていない。

2 第136期の1株当たり配当額 8.50円には、特別配当50銭を含んでいる。

3 第137期の1株当たり配当額 9.00円には、特別配当1円を含んでいる。

4 第138期の1株当たり配当額 9.00円には、特別配当1円を含んでいる。

5 第139期の1株当たり配当額10.00円には、特別配当2円を含んでいる。

6 第140期の1株当たり配当額11.00円には、特別配当1円を含んでいる。

7 第137期から「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用している。

2 【沿革】

年月	沿革
明治42年10月	創業者鈴木道雄により、鈴木式織機製作所として浜松で創業、その発明特許による足踏み式織機の製作を開始。
大正9年3月	鈴木式織機株式会社として改組設立。
昭和14年9月	静岡県浜名郡可美村高塚(現在浜松市高塚町)に高塚工場を建設。
昭和24年5月	東京、大阪、名古屋証券取引所に株式を上場。(大阪、名古屋証券取引所については、平成15年3月に上場廃止。)
昭和27年6月	輸送用機器部門に進出。
昭和29年5月	福岡証券取引所に株式を上場。(平成14年8月に上場廃止。)
昭和29年6月	鈴木自動車工業株式会社と社名変更。
昭和30年10月	軽四輪乗用車を発売。(わが国の軽自動車時代の先鞭をつける。)
昭和36年4月	繊維機械部門を分離、鈴木式織機株式会社を設立。
昭和36年9月	愛知県豊川市に豊川工場を建設、軽四輪トラックの生産を開始。
昭和38年8月	直営販売会社として米国、ロスアンゼルス市に U.S. Suzuki Motor Corp.(現 American Suzuki Motor Corp.)を設立。
昭和40年4月	船外機部門に進出。
昭和42年3月	合併会社としてタイ、バンコク市に Thai Suzuki Motor Co.,Ltd.を設立。
昭和42年8月	静岡県磐田市に自動車専用工場として磐田工場を建設。
昭和45年1月	静岡県小笠郡大須賀町(現在掛川市)に鑄造部品専用工場として大須賀工場を建設。
昭和45年3月	四輪駆動軽四輪車を発売。
昭和45年10月	静岡県湖西市に自動車専用工場として湖西工場を建設。
昭和49年6月	医療機器部門に進出。
昭和49年8月	住宅部門に進出。
昭和54年5月	軽四輪多用途車を発売。
昭和55年3月	産学協同による技術振興と技術助成を目的とした財団法人機械工業振興助成財団(現スズキ財団)を設立。
昭和55年4月	汎用エンジン部門に進出。
昭和56年8月	General Motors Corp.と資本及び業務提携調印。
昭和58年8月	湖西第二工場を建設し、小型車の生産を開始。同年10月発売。
昭和61年10月	General Motors of Canada Ltd.との合併により、カナダ、オンタリオ州インガソル市に CAMI Automotive Inc.を設立。
昭和62年3月	アムステルダム証券取引所に株式を上場。(平成11年5月に上場廃止。)
平成2年10月	スズキ株式会社と社名変更。
平成3年4月	合併会社としてハンガリー、エステルゴム市に Magyar Suzuki Corp.を設立。
平成12年9月	General Motors Corp.と従来よりの提携関係を一層強化することを目的とした新たな戦略的提携契約を締結。
平成12年9月	富士重工業(株)と業務提携に関する覚書を締結。
平成12年10月	教育への支援活動、青少年育成のための諸活動を行うことを目的とした財団法人スズキ教育文化財団を設立。
平成13年4月	日産自動車(株)と軽乗用車のOEM供給について合意。
平成13年8月	川崎重工業(株)と二輪車の業務提携に関する覚書を締結。
平成14年5月	インド、Maruti Udyog Ltd.を子会社化。
平成14年6月	General Motors Corp.と韓国、仁川市 GM DAEWOO Auto & Technology Companyへの資本参加及び事業参画について合意。
平成14年11月	インドネシア、PT Indomobil Suzuki Internationalを子会社化。
平成15年7月	子会社 Maruti Udyog Ltd.が、ムンバイ(旧ボンベイ)証券取引所及びインド証券取引所に上場。
平成18年3月	General Motors Corp.との間において、GMグループの出資比率変更及び戦略的協力と相互支援の継続を内容とする、戦略的提携契約の修正契約を締結。

3 【事業の内容】

当社グループは、子会社136社及び関連会社25社で構成され、二輪車、四輪車及び船外機・電動車両・住宅等の製造販売を主な内容とし、更に各事業に関連する物流及びその他のサービス等の事業を展開している。

当社グループの事業に係わる位置付け、及び事業の種類別セグメントとの関連は次のとおりである。

なお、当社のその他の関係会社であった General Motors Corp. は、保有する当社株式20.0%のうち17.0%を平成18年3月に売却し、出資比率が3.0%になったため、その他の関係会社には該当しないこととなった。しかしながら、今後とも戦略的パートナーとして各プロジェクトを続けていくことに変わりはない。

(二輪車事業)

二輪車の製造は当社が行うほか、海外においては子会社 Thai Suzuki Motor Co.,Ltd.、関連会社 済南軽騎鈴木摩托車有限公司 他で行っている。また、部品の一部については子会社 (株)スズキ部品富山 他で製造し、当社が仕入れている。

販売は、国内においては子会社 (株)スズキ二輪(東日本) 他の販売会社を通じ、海外においては子会社 Suzuki International Europe G.m.b.H. 他の販売会社を通じて行っている。

(四輪車事業)

四輪車の製造は当社が行うほか、海外においては子会社 Magyar Suzuki Ltd.、関連会社 CAMI Automotive Inc. 他で行っている。また、部品の一部については子会社 (株)スズキ部品浜松 他で製造し当社が仕入れている。

販売は、国内においては子会社 (株)スズキ自販近畿を始めとする全国の販売会社を通じ、海外においては子会社 American Suzuki Motor Corp. 他の販売会社を通じて行っている。また、物流サービスは子会社 スズキ輸送梱包(株)があたっている。

(その他の事業)

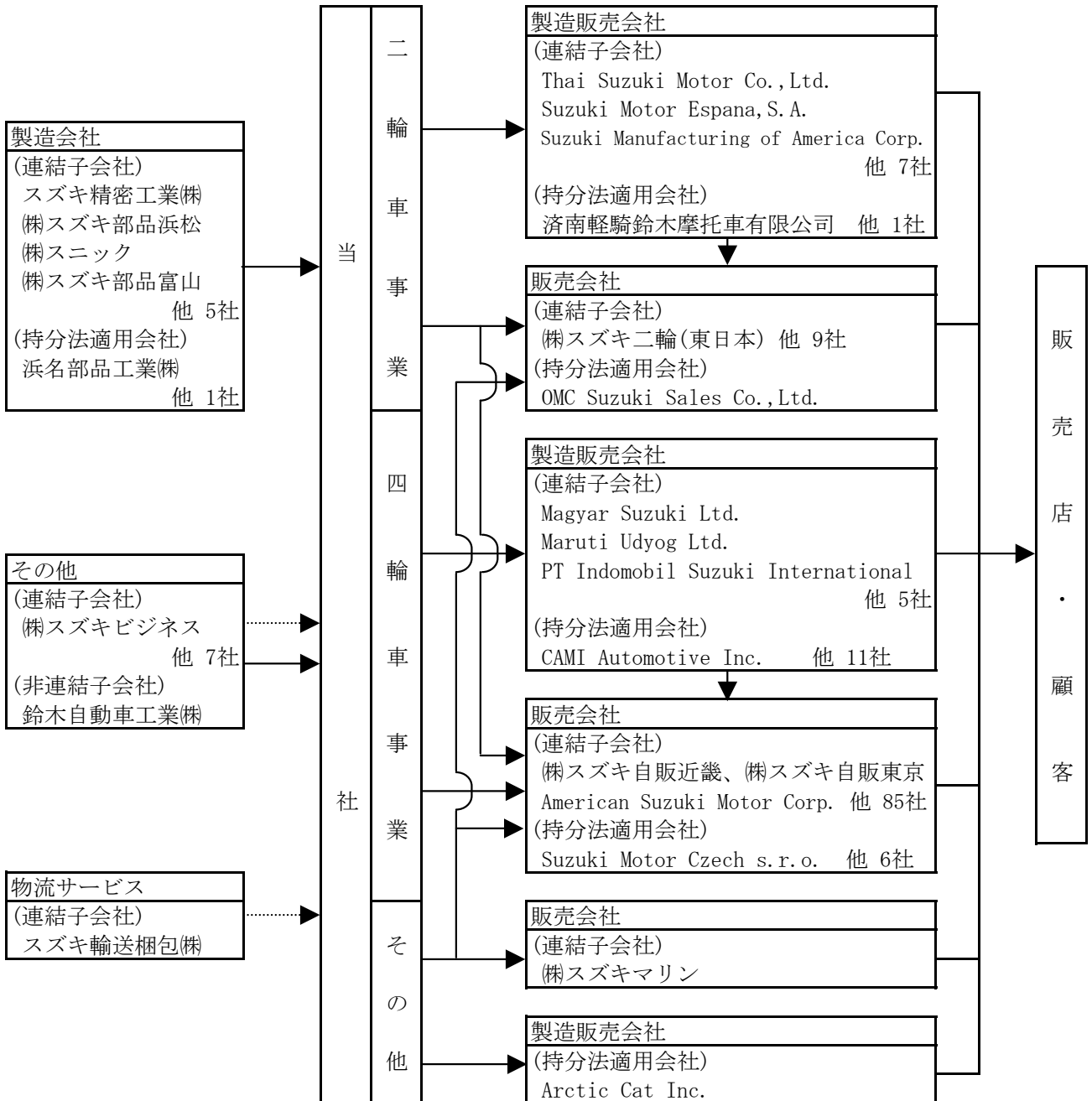
船外機の製造は主に当社が行い、販売は子会社 (株)スズキマリン 他で行っている。

また、国内において、電動車両の販売を子会社 (株)スズキ自販近畿 他の販売会社を通じて行っており、住宅の販売を子会社 (株)スズキビジネスで行っている。

事業の系統図は、次のとおりである。

事業系統図

————▶ 製品・部品の流れ
▶ サービスの流れ



4 【関係会社の状況】

(連結子会社)

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(株)スズキ二輪(東日本)	東京都 葛飾区	50	二輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)エスピーエス	東京都 新宿区	10	二輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の製品部品の販売
(株)スズキ二輪(西日本)	大阪府 茨木市	50	二輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販北海道	札幌市 東区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
旭川スズキ販売(株)	北海道 旭川市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販青森	青森県 青森市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販岩手	岩手県 盛岡市	80	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販山形	山形県 山形市	12	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販仙台	仙台市 宮城野区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり
(株)スズキ自販宮城	仙台市 宮城野区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販福島	福島県 郡山市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販茨城	茨城県 水戸市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販栃木	栃木県 宇都宮市	97	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販群馬	群馬県 高崎市	90	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販埼玉	さいたま市 北区	80	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販西埼玉	埼玉県 川越市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販関東	さいたま市 桜区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販千葉	千葉市 花見川区	80	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販京葉	千葉市 中央区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり
(株)スズキ自販東京	東京都 練馬区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販南東京	東京都 立川市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販神奈川	横浜市 保土ヶ谷区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販湘南	神奈川県 平塚市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販新潟	新潟県 長岡市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地の賃貸
(株)スズキ自販静岡	静岡市 葵区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販浜松	静岡県 浜松市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名 ・土地、建物の賃貸

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(株)スズキ自販東海	愛知県 豊橋市	10	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販中部	愛知県 尾張旭市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販三重	三重県 四日市市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販長野	長野県 長野市	48	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販南信	長野県 駒ヶ根市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販北陸	石川県 金沢市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販富山	富山県 富山市	70	四輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販滋賀	滋賀県 大津市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販京都	京都市 南区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販近畿	大阪市 西区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販関西	大阪府 守口市	95	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販兵庫	神戸市 西区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販姫路	兵庫県 姫路市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり
(株)スズキ自販奈良	奈良県 磯城郡	80	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販和歌山	和歌山県 和歌山市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販香川	香川県 高松市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販徳島	徳島県 徳島市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販松山	愛媛県 松山市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販高知	高知県 高知市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販鳥取	鳥取県 鳥取市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販島根	島根県 松江市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
スズキ岡山販売(株)	岡山県 岡山市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり
(株)スズキ自販広島	広島市 西区	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販山口	山口県 宇部市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販福岡	福岡県 糟屋郡	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販佐賀	佐賀県 佐賀市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販長崎	長崎県 西彼杵郡	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(株)スズキ自販熊本	熊本県 熊本市	90	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販大分	大分県 大分市	60	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販宮崎	宮崎県 宮崎市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販鹿児島	鹿児島県 鹿児島市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ自販沖縄	沖縄県 那覇市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
スズキ輸送梱包(株)	静岡県 浜松市	20	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社製品の輸送、梱包 ・役員の兼任 3名 ・土地の賃貸
(株)スズキ納整センター	静岡県 浜松市	50	四輪車事業	100.0	・当社製品の納車整備 ・役員の兼任 2名 ・土地、建物の賃貸
(株)ベルアート	静岡県 浜松市	10	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・広告宣伝資材の作成、特 装車の架装 ・役員の兼任 2名 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキマリン	静岡県 浜松市	50	その他の事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 2名 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキビジネス	静岡県 浜松市	99	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・土地家屋仲介、保険代理 業、人材派遣、油脂類の 販売、当社の製品部品の 販売 ・役員の兼任 2名 ・土地、建物の賃貸
スズキ・ワークス・テクノ(株)	静岡県 浜松市	10	四輪車事業	100.0	・当社四輪レース活動の企 画、運営 ・役員の兼任 2名 ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ・サポート	静岡県 浜松市	10	その他の事業	100.0	・清掃業務 ・役員の兼任 2名 ・土地、建物の賃貸
スズキファイナンス(株)	静岡県 浜松市	50	四輪車事業	100.0	・当社の製品の販売に関わ る金融業務 ・役員の兼任 4名 ・資金援助あり ・土地、建物の賃貸
(株)スズキ部品秋田	秋田県 南秋田郡	50	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 3名
スズキ精密工業(株)	静岡県 浜松市	50	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 3名
(株)浜松パイプ	静岡県 磐田市	50	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	89.9	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 3名 ・資金援助あり ・土地の賃貸
遠州精工(株)	静岡県 浜松市	50	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 4名 ・資金援助あり
(株)スニック	静岡県 磐田市	50	二輪車事業 四輪車事業	60.0	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 2名 ・土地、構築物の賃貸
(株)スズキ部品浜松	静岡県 磐田市	50	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	99.9	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 3名 ・土地、建物の賃貸
(株)エステック	静岡県 浜松市	80	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 4名
(株)スズキ部品富山	富山県 小矢部市	50	二輪車事業 四輪車事業	100.0	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 3名
(株)スズキ化成	静岡県 浜松市	50	四輪車事業	100.0	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 3名 ・資金援助あり

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
Suzuki International Europe G.m.b.H.	ドイツ ベンスハイム市	千ユーロ 50,000	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki Motor Espana,S.A.	スペイン ヒホン市	千ユーロ 20,857	二輪車事業	100.0	・当社の製品の製造、販売
Suzuki Motor Iberica,S.A.	スペイン レガネス市	千ユーロ 21,500	四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki Madrid S.L.U.	スペイン レガネス市	千ユーロ 3	四輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki Italia S.P.A.	イタリア トリノ市	千ユーロ 10,000	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki Austria Automobil Handels G.m.b.H.	オーストリア ザルツブルグ市	千ユーロ 7,267	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki France S.A.S.	フランス トラップ市	千ユーロ 20,000	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の製品部品の販売
Suzuki Finance Europe B.V.	オランダ アムステルダム市	千ユーロ 100,000	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社グループ内金融 ・役員の兼任 1名
Magyar Suzuki Ltd.	ハンガリー エステルゴム市	千ハンガリー フォリント 81,857,040	二輪車事業 四輪車事業	97.5	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 1名
Okroshegy Estate 2004.Kft.	ハンガリー ブダペスト市	千ハンガリー フォリント 5,000	四輪車事業	100.0 (100.0)	・土地管理業務
Suzuki Sport Europe Trading, Manufacturing, Servicing and Consulting Limited Liability Company	ハンガリー エステルゴム市	千ハンガリー フォリント 113,000	四輪車事業	51.3	・当社レース活動の企画、 運営 ・役員の兼任 1名
Suzuki GB PLC	英国 ウエストサセックス州 クラウレイ市	千スターリング ポンド 12,000	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki Cars(Ireland) Ltd.	アイルランド ダブリン市	ユーロ 2	四輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki Motor Poland Ltd.	ポーランド ワルシャワ市	千ズロチ 21,000	二輪車事業 四輪車事業	100.0 (2.9)	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
American Suzuki Motor Corp.	米国 カリフォルニア州 ブレア市	千U.S.ドル 64,700	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 2名
Suzuki Manufacturing of America Corp.	米国 ジョージア州 ローム市	千U.S.ドル 30,000	二輪車事業	100.0 (80.0)	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki Canada Inc.	カナダ オンタリオ州 リッチモンドヒル市	千カナダドル 9,400	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の製品部品の販売
Maruti Udyog Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 1,444,550	四輪車事業	54.2	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 3名
Suzuki Powertrain India Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 700,000	四輪車事業	100.0 (49.0)	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 2名
Maruti Suzuki Automobiles India Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 400,000	四輪車事業	100.0 (70.0)	・当社の製品の製造 ・役員の兼任 2名
Maruti Insurance Brokers Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 500	四輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の製品の販売に関わ る保険業務
Maruti Insurance Distribution Services Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 500	四輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の製品の販売に関わ る保険業務
True Value Solutions Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 500	四輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の製品の販売
Maruti Insurance Agencies Network Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 500	四輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の製品の販売に関わ る保険業務
Maruti Insurance Agencies Solutions Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 500	四輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の製品の販売に関わ る保険業務
Suzuki Motorcycle India Private Limited	インド ニューデリー市	千インドルピー 713,432	二輪車事業	74.0	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 2名
PT Indomobil Suzuki International	インドネシア ジャカルタ市	千U.S.ドル 45,000	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	90.0	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 3名
PT Indomobil Niaga International	インドネシア ジャカルタ市	千インドネシア ルピア 5,000,000	四輪車事業	99.0 (99.0)	・当社の製品部品の販売

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
PT Intindo Wahana Gemilang	インドネシア ジャカルタ市	千インドネシア ルピア 1,600,000	四輪車事業	80.0 (80.0)	・当社の部品の製造
PT Buana Indomobil Trada	インドネシア ジャカルタ市	千インドネシア ルピア 36,500,000	四輪車事業	99.0 (99.0)	・当社の製品部品の販売
PT Indojakarta Motor Gemilang	インドネシア ジャカルタ市	千インドネシア ルピア 84,000,000	二輪車事業	99.0 (99.0)	・当社の製品部品の販売
PT Indocar Tatabody	インドネシア ジャカルタ市	千インドネシア ルピア 1,000,000	四輪車事業	99.0 (99.0)	・当社の製品の架装
PT Indo Sunmotor Gemilang	インドネシア スマラン市	千インドネシア ルピア 57,000,000	二輪車事業	60.0 (60.0)	・当社の製品部品の販売
PT Indosolo Motor Gemilang	インドネシア ソロ市	千インドネシア ルピア 24,000,000	二輪車事業	51.0 (51.0)	・当社の製品部品の販売
PT Indomadiun Wijaya Motor	インドネシア マディウン市	千インドネシア ルピア 6,500,000	二輪車事業	51.0 (51.0)	・当社の製品部品の販売
PT Handijaya Buana Trada	インドネシア ジャカルタ市	千インドネシア ルピア 5,000,000	四輪車事業	51.0 (51.0)	・当社の製品部品の販売
PT Sumberbaru Sentral Mobil	インドネシア ジャカルタ市	千インドネシア ルピア 9,500,000	四輪車事業	51.0 (51.0)	・当社の製品部品の販売
PT Buanamobil Sentral Trada	インドネシア ジャカルタ市	千インドネシア ルピア 3,500,000	四輪車事業	51.0 (51.0)	・当社の製品部品の販売
PT Sunindo Varia Motor Gemilang	インドネシア メダン市	千インドネシア ルピア 30,000,000	二輪車事業	51.0 (51.0)	・当社の製品部品の販売
PT Sunmotor Indosentra Trada	インドネシア スマラン市	千インドネシア ルピア 43,000,000	四輪車事業	51.0 (51.0)	・当社の製品部品の販売
PT Buana Alexander Trada	インドネシア デボック市	千インドネシア ルピア 12,500,000	四輪車事業	51.0 (51.0)	・当社の製品部品の販売
PT Sunmotor Buana Trada	インドネシア ジャカルタ市	千インドネシア ルピア 6,000,000	四輪車事業	51.0 (51.0)	・当社の製品部品の販売
PT United Indo Bali	インドネシア デンパサール市	千インドネシア ルピア 16,000,000	四輪車事業	50.0 (50.0)	・当社の製品部品の販売
Suzuki Motorcycles Pakistan Ltd.	パキスタン カラチ市	千パキスタン ルピー 438,989	二輪車事業	84.2 (41.0)	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 1名 ・資金援助あり
Pak Suzuki Motor Co.,Ltd.	パキスタン カラチ市	千パキスタン ルピー 540,443	四輪車事業	73.1	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki Philippines Inc.	フィリピン マニラ市	千フィリピンペソ 326,600	二輪車事業 四輪車事業	100.0	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 1名
Thai Suzuki Motor Co.,Ltd.	タイ パトゥムタニ県 ランシット地区	千バーツ 270,910	二輪車事業 その他の事業	52.1	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 2名
Suzuki Automobile(Thailand) Co.,Ltd.	タイ バンコク市	千バーツ 400,000	四輪車事業	60.0	・当社の製品部品の販売
Suzuki Motor R&D Asia Co.,Ltd.	タイ パトゥムタニ県 ランシット地区	千バーツ 75,000	二輪車事業	100.0	・当社製品の企画、開発 ・役員の兼任 1名
Myanmar Suzuki Motor Co.,Ltd.	ミャンマー ヤンゴン市	千U.S.ドル 6,700	二輪車事業 四輪車事業	60.0	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 1名
Cambodia Suzuki Motor Co.,Ltd.	カンボジア カンダール県 アンスヌール地区	千U.S.ドル 1,000	二輪車事業	85.0	・当社の製品の製造、販売
Suzuki Assemblers Malaysia Sdn.Bhd.	マレーシア プライ市	千マレーシアドル 26,261	二輪車事業	51.0	・当社の製品の製造、販売
Lion Suzuki Marketing Sdn.Bhd.	マレーシア プライ市	千マレーシアドル 3,001	二輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の製品の販売 ・役員の兼任 1名

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
Otomotif Malaysia Sdn.Bhd.	マレーシア プライ市	千マレーシアドル 3,000	二輪車事業	100.0 (100.0)	・当社の部品の製造
鈴木(中国)投資有限公司	中国 北京市	千U.S.ドル 75,166	四輪車事業	100.0	・当社関係会社の持株会社 ・役員の兼任 1名
鈴木摩托車研究開発有限公司	中国 広東省 江門市	千U.S.ドル 6,100	二輪車事業	60.0	・当社製品の企画、開発
Suzuki Australia Pty.Ltd.	オーストラリア メルボルン市	千オーストラリア ドル 22,400	二輪車事業 四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki New Zealand Ltd.	ニュージーランド ワンガヌイ市	千ニュージー ランドドル 3,000	二輪車事業 四輪車事業	100.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki Motor de Colombia S.A.	コロンビア ベレイラ市	千コロンビアペソ 259,671	二輪車事業 その他の事業	100.0	・当社の製品の製造、販売
Suzuki Motor de Mexico, S.A.de C.V.	メキシコ メキシコシティ市	千メキシコペソ 155,862	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	100.0 (0.0)	・当社の製品部品の販売

(持分法適用関連会社)

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
浜名部品工業㈱	静岡県 湖西市	百万円 198	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	35.7	・当社の部品の製造 ・機械装置の賃貸
㈱ベルソニカ	静岡県 湖西市	百万円 156	二輪車事業 四輪車事業	19.0	・当社の部品の製造
Suzuki Motor Czech s.r.o.	チェコ ブラハ市	千チェココルナ 45,000	二輪車事業 四輪車事業	40.0	・当社の製品部品の販売
Suzuki Automobile Schweiz AG	スイス ザーフェンヴィル市	千スイスフラン 1,000	四輪車事業	35.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Suzuki Financial Services Ltd.	ハンガリー ブダペスト市	千ハンガリー フォリント 50,000	四輪車事業	25.0 (25.0)	・当社の製品の販売に関わ る金融業務
CAMI Automotive Inc.	カナダ オンタリオ州 インガソル市	千カナダドル 363,578	四輪車事業	50.0	・当社の製品の製造、販売
Arctic Cat Inc.	米国 ミネソタ州 シーフリバーフォール ズ市	千U.S.ドル 194	二輪車事業 その他の事業	34.7	・当社の製品の製造、販売
済南輕騎鈴木摩托車有限公司	中国 山東省 済南市	千U.S.ドル 24,000	二輪車事業	40.0	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 1名
重慶長安鈴木汽車有限公司	中国 重慶市	千U.S.ドル 70,000	四輪車事業	35.0	・当社の製品の製造、販売
江西昌河鈴木汽車有限責任公司	中国 江西省 景徳鎮市	千U.S.ドル 251,800	四輪車事業	45.4 (19.3)	・当社の製品の製造、販売
Krishna Maruti Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 42,410	四輪車事業	45.0 (15.8)	・当社の部品の製造
Bharat Seats Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 31,400	四輪車事業	29.6 (14.8)	・当社の部品の製造
Machino Plastics Ltd.	インド グルガオン市	千インドルピー 61,368	四輪車事業	30.7 (15.4)	・当社の部品の製造 ・役員の兼任 1名
Jay Bharat Maruti Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 54,125	四輪車事業	29.3 (29.3)	・当社の部品の製造
Caparo Maruti Ltd.	インド グルガオン市	千インドルピー 125,000	四輪車事業	20.0 (20.0)	・当社の部品の製造
Climate Systems India Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 133,000	四輪車事業	39.0 (39.0)	・当社の部品の製造
Mark Auto Industries Ltd.	インド グルガオン市	千インドルピー 54,300	四輪車事業	48.7 (48.7)	・当社の部品の製造
Mark Exhaust Systems Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 30,500	四輪車事業	44.4 (44.4)	・当社の部品の製造
Citicorp Maruti Finance Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 1,000,000	四輪車事業	26.0 (26.0)	・当社の製品の販売に関わ る金融業務
J.J. Impex(Delhi) Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 75,000	四輪車事業	49.1 (49.1)	・当社の製品の保守サービ ス
Maruti Countrywide Auto Financial Services Ltd.	インド ニューデリー市	千インドルピー 400,000	四輪車事業	26.0 (26.0)	・当社の製品の販売に関わ る金融業務
金鈴汽車股份有限公司	台湾 中壢市	千NTドル 100,000	四輪車事業	50.0	・当社の製品部品の販売 ・役員の兼任 1名
Vietnam Suzuki Corp.	ベトナム ドンナイ省 ピエンホワ市	千ベトナムドン 290,299,100	二輪車事業 四輪車事業	35.0	・当社の製品の製造、販売 ・役員の兼任 1名
HICOM-Suzuki Manufacturing Malaysia Sdn.Bhd.	マレーシア プライ市	千マレーシアドル 12,000	二輪車事業	49.0 (24.0)	・当社の製品の製造、販売
OMC Suzuki Sales Co.,Ltd.	カンボジア カンダール県 アンスヌール地区	千リエル 500,000	二輪車事業	49.0	・当社の製品部品の販売

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載している。
2 特定子会社に該当する。
3 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はない。
4 「議決権の所有又は被所有割合」欄の()内には、間接所有割合を内数で記載している。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成18年3月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数（人）
二輪車事業	8,488（4,743）
四輪車事業	30,862（8,619）
その他の事業	952（352）
全社（共通）	496（41）
合計	40,798（13,755）

(注) 1 従業員数は就業人員数（当社グループからグループ外部への出向者は除く）であり、臨時雇用者数（期間社員、人材会社からの派遣社員、パートタイマー他）は、年間の平均雇用人員を（ ）内に外数で記載している。

2 全社（共通）として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものである。

(2) 提出会社の状況

平成18年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与（円）
10,972（2,256）	38歳 5ヶ月	17年 2ヶ月	6,359,293

(注) 1 従業員数は就業人員数（当社からの出向者2,165名及び海外駐在者等263名を除く）であり、臨時雇用者数（期間社員、人材会社からの派遣社員、パートタイマー他）は、年間の平均雇用人員を（ ）内に外数で記載している。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいる。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は、スズキ関連労働組合連合会に加盟し、同連合会は全日本自動車産業労働組合総連合会に所属している。また、同総連合会は日本労働組合連合会に所属している。

平成18年3月末現在の組合員総数は、14,509名であり、労使関係は相互信頼を基調としてきわめて安定している。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度の当社グループを取巻く経営環境は、原油価格の高騰等の影響が懸念されたものの、国内においては、企業収益の改善や需要の増加などから設備投資は増加し、また、個人消費も底堅く推移したことなどから、景気は緩やかに回復を続けてきた。海外においても、米国をはじめ世界全体の経済は概ね順調に推移し、着実に回復してきた。

このような状況下、「スズキ中期5ヵ年計画」のスタートとなる当連結会計年度は、研究開発投資・設備投資などの先行投資による負担増などから、期初の計画は減益見通しであったが、当社グループ一丸となって取り組んできた結果、当連結会計年度の業績は、連結売上高は2兆7,464億5千3百万円(前年同期比116.1%)、連結利益の面では、減価償却費・研究開発費・諸経費などの増を、原価低減や売上増加、為替差益で吸収し、営業利益は1,138億6千5百万円(前年同期比105.9%)、経常利益は1,193億2千1百万円(前年同期比108.9%)、当期純利益は659億4千5百万円(前年同期比109.0%)となった。

一方、当社単独の売上高は1兆6,901億6千9百万円(前年同期比114.1%)となったが、減価償却費・研究開発費・諸経費の増などにより、営業利益は474億8千2百万円(前年同期比89.9%)、経常利益は521億7千9百万円(前年同期比98.6%)と減益となり、当期純利益は372億7千1百万円(前年同期比104.3%)と特別損失の減などにより増益となった。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりである。

二輪車事業

国内の売上高は、全体需要が微増のなか、「レッツ4」、「アドレスV125」などの順調な販売の結果、前連結会計年度を上回った。海外においては、「GSX-R1000」、「ブルバード」などの大型二輪車の好調な販売や、新型スポーツATV「LT-R450」の発売、アジア地域での現地生産車が増加したことなどにより、前連結会計年度を大幅に上回った。その結果、二輪車事業の売上高は5,613億6百万円(前年同期比121.9%)となった。営業利益は、研究開発費・諸経費の増などを、原価低減や売上増加などで吸収し、459億3千1百万円(前年同期比120.4%)と増加した。

四輪車事業

国内においては、小型車「スイフト」の順調な販売に加え、新型SUV「エスクード」の発売、軽自動車にあっては「ワゴンR」の順調な販売に加え、「エブリイ」、「MRワゴン」の発売など、商品力の強化をはかり拡販に努めた結果、国内の売上高は前連結会計年度を上回った。一方、海外の売上高は、世界戦略車としてハンガリー、インド、中国で生産・販売を開始した「スイフト」、日本からの輸出を開始した「グランドビターラ」(エスクードの輸出名)の好調な販売などにより、前連結会計年度を上回った。その結果、四輪車事業の売上高は2兆1,199億4千万円(前年同期比114.9%)となったが、営業利益は、減価償却費・研究開発費・諸経費などの増を、原価

低減や売上増加などで吸収出来ず、579億2千8百万円(前年同期比96.3%)と減少した。

その他の事業

その他の事業の売上高は652億6百万円(前年同期比110.1%)となり、また、営業利益は、売上増加などにより、100億5百万円(前年同期比108.2%)と増加した。

所在地別セグメントの業績は、次のとおりである。

日本

売上高は、1兆8,183億7千8百万円(前年同期比112.3%)となったが、営業利益は減価償却費・研究開発費・諸経費の増などを原価低減や売上増加などでカバー出来ず、607億7千6百万円(前年同期比92.6%)と減少した。

欧州

新型小型車「スイフト」の発売などにより、売上高は4,920億4千9百万円(前年同期比118.8%)となり、営業利益についても、ハンガリーのマジャール スズキ社での「スイフト」の生産増や、新型スポーツクロスオーバー「S X 4」の生産開始に伴う減価償却費・諸経費の増を吸収し、77億6千8百万円(前年同期比116.1%)と増加した。

北米

新型SUV「グランドピタラ」の発売や大型二輪車の販売好調などにより、売上高は、3,928億8千5百万円(前年同期比129.4%)となり、営業利益は、売上増加などにより、72億2千2百万円(前年同期比155.7%)と増加した。

アジア

新型小型車「スイフト」の販売を開始したインドのマルチ ウドヨグ社や、インドネシアのインドモビル スズキ インターナショナル社などでの売上増加などにより、売上高は、6,067億3千5百万円(前年同期比121.3%)となり、営業利益は、売上増加や原価低減などにより453億8千6百万円(前年同期比121.7%)と増加した。

その他の地域

売上高は、422億2千7百万円(前年同期比158.2%)、営業利益は、売上増加などにより、25億1千8百万円(前年同期比172.0%)となった。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度の連結ベースにおける現金及び現金同等物は、2,166億2千3百万円(前年同期と比べ147億7千4百万円減)となった。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上及び減価償却費などにより、2,400億4千3百万円(前年同期と比べ276億1千5百万円増)となった。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などで、1,042億1千5百万円(前年同期と比べ218億8千7百万円支出の減)となった。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得などで、1,607億2千5百万円(前年同期と比べ1,166億6千7百万円支出の増)となった。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりである。

事業の種類別セグメントの名称	生産高	前年同期比(%)
二輪車事業	2,138,371台	120.3
四輪車事業	2,023,523台	111.7
その他の事業	67,619百万円	116.7

(注) 1 金額は販売価格による。

2 上記金額には、消費税等は含まれていない。

(2) 受注状況

当社グループは主に見込み生産を行っているため、該当事項はない。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりである。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
二輪車事業	561,306	121.9
四輪車事業	2,119,940	114.9
その他の事業	65,206	110.1
合計	2,746,453	116.1

(注) 上記金額には、消費税等は含まれていない。

3 【対処すべき課題】

当社グループを取巻く経営環境は、為替変動など極めて不透明であり、また、企業間競争は一段と激化し、ますます厳しい状況にある。

このような厳しい環境に対処するため、当社グループは、基本方針として“生き残るために、我流をすてて、基本に忠実に行動しよう”を掲げ、あらゆる分野での見直しを行い、経営体質の強化に努めていく。

また、当社は、取締役の数を従来の半数程度とし、新たな役員制度（専務役員・常務役員）を導入することにより、各部門の業務運営を機動的に行い、業務のスピードアップと責任体制の明確化を図っていく。なお、取締役は、たて割の弊害をなくし、経営的な視点から横断的に事業をみることが出来るよう、複数の事業部門を担当するものとする。

二輪車においては、国内では、原付車や大型二輪車の拡販に努め、また、欧州・北米市場では、レースで培った「スポーティ、若々しさ、ユニークさ」といったブランドイメージを成長させられる商品を投入し、収益性の高い二輪車事業を構築していく。

また、アジア地域では、経済成長とともに二輪車需要が急増しており、これらの市場ニーズにあった商品の投入とともに、生産体制の整備・拡充に努めていく。

四輪車においては、国内・海外ともに市場に密着した商品づくりと営業活動を進めていく。国内では、営業マンの増員・教育など販売力を強化し、また、「スズキ アリーナ店」の店づくりを進め、販売増に結びつけていく。一方、海外においては、部品の現地調達、コストダウン活動や一層の品質・生産性向上などを推進し、海外拠点のさらなる強化を図っていく。

さらに、世界4極市場にマッチした商品を効率的にスピードを上げて開発し、タイミングよく商品化していくよう努めていく。また、地球環境保護のために、排出ガス低減、燃費向上、省資源化、リサイクル化など環境に配慮した商品開発を推進するとともに、ディーゼルエンジンについてはフィアット社、ハイブリッド車・燃料電池自動車等の開発は、ゼネラル モーターズ社など、各社との提携による効果を最大限活用し取り組んでいく。

なお、平成18年3月に、GMグループが当社株式を売却したことにより、当社に対する出資比率は3.0%となったが、当社とゼネラル モーターズ社は昭和56年8月以来、25年間にわたって建設的な提携関係を継続しており、今後とも、先端技術の開発協力、カナダでの合弁工場CAMIプロジェクト及びそこでの新型ミディアムSUV生産、パワートレイン開発協力、OEM製品の相互供給、グローバル共同購買など具体的なプロジェクトは積極的に推進していく。

また、当社は、平成13年4月の合意に基づき、日産自動車株式会社に軽自動車をOEM供給しているが、今後は、相互供給を前提として、OEM供給などを拡大していく予定である。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のよう
なものがある。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成18年6月30日)現在において
当社グループが判断したものである。

経済情勢の変化

長期間の景気低迷、消費者の購買意欲低下は、二輪車、四輪車及び船外機などの当社グループ製
品の需要の大幅な低下につながり、当社グループの業績に影響を与える可能性がある。

また、当社グループは、世界各国において事業を展開しており、特に、アジア地域の発展途上国
を中心とした海外生産工場への依存度も年々高まってきている。これらの市場での経済情勢の急変
などの不測の事態は、当社グループの業績に影響を与える可能性がある。さらに、各国の税制の予
期せぬ変更や新たな適用が、当社グループの業績に影響を与える可能性もある。

製品価格・仕入価格の変動

需要の急激な変化、特定の部品・原材料の供給不足・値上がり、不安定な経済状況、輸入規制の
改正、価格競争の激化などさまざまな要因により、当社グループの製品価格・仕入価格の急激な変
動が引き起こされる場合がある。このような急激な価格変動が長引かない、あるいは、これまでこ
のような変動がなかった市場で発生しないという保証はない。当社グループが事業展開しているど
の市場においても、急激な製品価格・仕入価格の変動は、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可
能性がある。

為替変動

当社は、日本から世界各国へ二輪車、四輪車、船外機並びにそれらの部品などを輸出している。

また、海外の生産拠点からも、それらの製品や部品を複数の国々へ輸出している。為替レート
の変動は、当社グループの経営成績及び財政状態、また、競争力にも影響し、当社グループの業績に
影響する。

さらに、為替変動は、外貨建で当社が販売する製品の価格設定及び購入する原材料の価格に影響
する。当連結会計年度の連結売上高に占める海外売上高は66.0%であり、米国ドル、ユーロ等の外
貨建取引もかなりの部分を占めている。為替変動リスクの軽減を図るため、為替予約等のヘッジを
行っているが、全てのリスクをヘッジすることは不可能であり、円が他の通貨に対して円高になる
と、当社グループの業績が悪影響を受ける可能性がある。

環境等の規制

排気ガス排出レベル、燃費、騒音、安全性及び製造工場からの汚染物質排出レベルに関して、二
輪車、四輪車及び船外機業界は、様々な法規制の適用を受けている。これらの規制は改正される可
能性があり、多くの場合強化される。これらの規制を遵守するための費用は、当社グループの業績
に対して大きな影響を与える可能性がある。

災害・戦争・テロ・ストライキ等の影響

当社グループの日本での主要生産拠点は東海地区を中心に点在し、生産活動を行っている。また、当社の本社をはじめとするその他の施設も主に東海地区に集中している。万一、東海地震や東南海地震などの発生があると業績に多大な影響を及ぼす可能性がある。このような災害による被害の影響を最小限に抑えるべく、建物・設備等の耐震対策、防火対策、業務復旧計画の策定、地震保険への加入等、様々な予防策を講じている。

海外においても、当社グループは世界各国において事業を展開しているが、自然災害、疾病、戦争、テロ、ストライキなどの予期せぬ事象が発生すると、原材料や部品の購入、生産、製品の販売及び物流やサービスの提供などに遅延や停止が生じる可能性がある。これらの遅延や停止が起これば、長引くようであれば、当社グループの業績に対して悪影響を及ぼす可能性がある。

なお、上記以外にもさまざまなリスクがあり、ここに記載されたものが当社グループのすべてのリスクではない。

5 【経営上の重要な契約等】

- 1 昭和56年8月12日、米国の General Motors Corp. と小型四輪車の分野における相互補完を目的とした資本並びに業務提携契約を締結した。
- 2 昭和61年8月26日、カナダの General Motors of Canada Ltd. とカナダにおける四輪車生産のための現地法人設立についての合意書に調印し、同年10月1日に CAMI Automotive Inc. を設立した。
- 3 平成2年1月12日、(株)伊藤忠商事、ハンガリーの Autokonszern RT. 及び International Finance Corp. との間において、ハンガリーにおける四輪車生産のための現地法人設立についての基本合意書に調印し、平成3年4月24日に Magyar Suzuki Corp. を設立した。
なお、平成7年11月13日に Autokonszern RT. は解散し、平成9年6月に International Finance Corp. は、合併から離脱した。
- 4 平成10年9月15日、米国の General Motors Corp. との間において、これまでの業務提携関係を全世界規模で一段と強化すること、並びにかかる関係及び競争力の強化を図るという両社の意図を表明する象徴的な方法として行う General Motors Corp. への新株割当に関する契約を締結した。
- 5 平成12年9月14日、米国の General Motors Corp. との間において、従来よりの提携関係を一層強化することを目的とした新たな戦略的提携契約を締結した。
- 6 平成12年9月29日、富士重工業(株)と業務提携に関する覚書を締結した。
- 7 平成13年4月2日、日産自動車(株)と軽乗用車のOEM供給についての基本合意書を締結した。
- 8 平成13年8月29日、川崎重工業(株)と二輪車・ATV(四輪バギー車)の商品開発、調達、生産その他における業務提携に関する覚書を締結した。
- 9 平成14年5月15日、インド政府と Maruti Udyog Ltd. の株主割当増資とインド政府保有株式の市場公開について修正合併契約書を締結した。
- 10 平成14年8月6日、GMグループ、The Korea Development Bank と GM DAEWOO Auto & Technology Company への資本参加について株式引受契約を締結した。
- 11 平成14年11月15日、PT Indomobil Sukses International TBK と PT Indomobil Suzuki International の株式買取りについて株式売買契約を締結した。
- 12 平成18年3月6日、米国の General Motors Corp. との間において、GMグループの出資比率変更及び戦略的協力と相互支援の継続を内容とする、平成12年9月14日締結の戦略的提携契約の修正契約を締結した。
- 13 当社は、海外において技術援助契約を締結のうえ、四輪車又は二輪車等のノックダウン生産を行っている。
その主なものは次のとおりである。

契約締結日	国名	締結先	契約項目
昭和42年5月1日	タイ	Thai Suzuki Motor Co.,Ltd.	スズキ二輪車の製造・組立に関する技術供与
昭和57年10月2日	インド	Maruti Udyog Ltd.	スズキ四輪車の製造・組立に関する技術供与
平成元年3月1日	カナダ	CAMI Automotive Inc.	〃
平成2年12月24日	インドネシア	PT Indomobil Suzuki International	スズキ二輪車・四輪車の製造・組立に関する技術供与
平成3年4月24日	ハンガリー	Magyar Suzuki Ltd.	スズキ四輪車の製造・組立に関する技術供与
平成11年8月10日	中国	重慶長安鈴木汽車有限公司	〃

6 【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は主に当社が行っており、技術革新の進展とますます多様化するユーザーニーズに対応し独創的で競争力のある商品を提供するため、既存分野にとらわれず幅広い技術開発に積極的に取り組んでいる。

また、本社技術部門及び横浜研究室をはじめとした研究体制にて、自動車分野における先端技術の基礎研究から応用技術開発まで充実させるとともに、ゼネラル モーターズ社との技術提携により新技術の共同開発も進めている。当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は899億1千7百万円であり、事業の種類別セグメントの研究開発活動を示すと次のとおりである。

(1) 二輪車事業

主に新商品機種の開発及び要素技術の開発を行っている。また、低燃費次世代エンジンの連続可変ミラーサイクルエンジンや各種エンジン シリンダーへの高速めっき適用拡大、エンジン燃焼解析などの新技術について研究開発を行っている。当連結会計年度における研究開発費の金額は182億2千4百万円であり、主な成果としては下記のもの挙げられる。

- ・ 流れるようなスタイリングとハイパフォーマンスをコンセプトに開発し際立った存在感を持つ大型クルーザー「ブルバードM109R」をはじめ、スポーティーな新デザインに加えシート高を二段階に手動調節できるシート機構を採用し扱いやすさを向上させた「バンディット1200」、コンパクトな新設計エンジン・新形状のショートマフラーの装着などにより徹底したマスの集中化・低重心化を実施しコンパクトな車体により優れたコントロール性を実現した「GSX-R750」、これまでのネイキッドモデルのスタイリングイメージを越えた先進のスタイリングとGSX-Rシリーズのテクノロジーを盛り込んだ高い走行性能の「GSR600」、新設計フレームの採用と新開発のDOHC4バルブエンジンの搭載により2人乗り時にも力強くゆとりのある走りを実現すると共にスタイリングを一新した「スカイウェイブ250タイプS」、当社独自のめっきシリンダーを採用しエンジンの耐久性と軽量小型化を追求し、また、新設計フレームの採用などにより車体の軽量化・低燃費化と共に低価格化も実現した「バーディー90」、燃料噴射装置（フューエルインジェクション）付き4サイクルエンジン搭載によるスポーティーで力強い走りと低燃費を特長とし快適性と経済性を追求したスクーター「アドレスV50」「アドレスV50G」など、新商品機種を開発。
- ・ エンジンピストンの製造工程に鋳巣がほとんど発生しない「PFダイカスト法」を導入し、従来の製品に比べ耐久性・耐熱性に優れた「スズキ・スーパー・キャスト ピストン」を開発。PFダイカスト法で製造されたピストンを二輪車エンジンで実用化するのは、業界初。

(2) 四輪車事業

主に新商品機種の開発及び要素技術の開発を行っている。また、ITS/ASV、エンジン燃焼解析などの研究開発や衝突安全性向上と軽量化を両立したレーザー溶接技術開発、さらには将来の環境保全に対応する有力な候補である燃料電池車の開発をゼネラル モーターズ社との相互協力の下で進めるなど、安全・環境に関する技術や各種新技術の研究開発を行っている。当連結会計年度における研究開発費の金額は695億2千3百万円であり、主な成果としては下記のもの挙げられる。

- ・子育てと日常の生活を両立させている女性を主なターゲットとし「Mom's Personal Wagon」を開発コンセプトとした「MRワゴン」をはじめ、ファミリーがファーストカーとして選んで満足できる「軽ミニバン」をコンセプトに快適な居住空間と便利な積載性能を追求し日常の使い勝手を一層高めた「エブリイワゴン」、荷室とキャビンの使い易さを向上し進化させた「仕事の道具」をコンセプトに扱いやすさを向上した軽商用車の「エブリイ」、クラストップの最小回転半径3.6mを実現し狭い畦道等を多用する用途に合わせた「キャリイ」ショートホイールベース車、リアルスポーツコンパクトを開発コンセプトに「走る・曲がる・止まる」の基本性能を向上させ新開発の1.6Lエンジンとサスペンションなどを採用した上で、デザインも走りの予感をさせるエクステリアとした「スイフト スポーツ」、スタイリッシュなデザイン、後輪駆動レイアウトをベースに副変速機を備えた本格的な4WDシステム、安全や環境に配慮した最新装備を採用するなど、世界で高く評価される性能を追求した「エスクード」、軽ワンボックスタイプの福祉車両「エブリイワゴン車いす移動車」「エブリイ車いす移動車」など、新商品機種を開発。
- ・「スイフト」が、「2006年次RJCカー・オブ・ザ・イヤー」及び「2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞『Most Fun』」をダブル受賞。

(3) その他

特機事業におけるマリン関係製品をはじめ電動車両・産業機器・住宅の新商品機種の開発及び要素技術開発などを行っている。特にマリン関係においては環境に対応した各種防錆技術の研究開発を進めるとともに、環境技術の海外工場への移植を積極的に行っている。

また、静岡県西部の環境保全活動を官、学、NPOなどと連携して行っている。

当連結会計年度における研究開発費の金額は21億6千9百万円であり、主な成果としては下記のもの挙げられる。

- ・特機事業では、4ストローク直列4気筒2,867ccの新開発エンジンを搭載し低速から高速まで全運転域にわたるパワフルな加速性能や俊敏なレスポンスなど優れた動力性能を発揮しながら軽量・コンパクト化を実現し、EPA（アメリカ環境保護庁）が定めた段階的排ガス規制値及び(社)日本舟艇工業会のマリンエンジン排ガス自主規制値を2006年レベルでクリアする「DF150」「DF175」をはじめ、当社4ストローク船外機では初となるV型2気筒の新開発エンジンを搭載し優れた動力性能を発揮しながら軽量・コンパクト・低燃費を実現した「DF25」など、新商品機種を開発。
- ・電動車両では、都市部での使用に配慮したコンパクトな車体を採用し、後輪2モーター制御方式によって小回りのきく車体とし操作性や乗り心地、使いやすさにも配慮した新型電動車いす「タウンカート」など新商品機種を開発。
- ・静岡大学の佐鳴湖の水質浄化を目的とした「アメニティ佐鳴湖プロジェクト」や浜名湖の環境保全を目的とした静岡県およびNPOによる「はまなこ環境ネットワーク」に参加し、静岡県西部の湖沼の環境保全に協力。

7 【財政状態及び経営成績の分析】

当社グループに関する財政状態及び経営成績の分析・検討内容は原則として連結財務諸表に基づいて分析した内容である。

なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成18年6月30日)現在において当社グループが判断したものである。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。その作成には経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要とする。経営者は、これらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的に判断しているが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合がある。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しているが、特に次の重要な会計方針が連結財務諸表作成における重要な見積りの判断に大きな影響を及ぼすと考えている。

貸倒引当金の計上基準

当社グループは売上債権等の貸倒損失に備えて回収不能となる見積額を貸倒引当金として計上している。将来、顧客の財務状況が悪化し支払能力が低下した場合には、引当金の追加計上または貸倒損失が発生する可能性がある。

製品保証引当金の計上基準

当社グループは販売した製品のアフターサービスに対する費用の見積り額を製品保証引当金として計上している。このアフターサービス費用は、製品不良の発生率や修理コストに影響されるが、この見積りは原則として保証書の約款に従い過去の実績に基づいている。従って、製品不良の発生率や修理コストが見積りと異なる場合、製品保証引当金の修正が必要となる可能性がある。

製造物賠償責任引当金の計上基準

北米向け輸出製品に対して、「製造物賠償責任保険」(PL保険)で補填されない損害賠償金の支払に備えるため、過去の実績を基礎に会社負担見込額を計上している。従って、今後の訴訟の発生状況により、製造物賠償責任引当金の見積り額の修正が必要となる可能性がある。

有価証券の減損処理

当社グループは金融機関や仕入に係る取引会社の株式を保有している。これらの株式は株式市場の価格変動リスクを負っているため、合理的な基準に基づいて有価証券の減損処理を行っている。なお、将来株式市場が悪化した場合には、多額の有価証券評価損を計上する可能性がある。

固定資産の減損処理

当社グループは「固定資産の減損に係る会計基準」を適用しており、減損の測定に際し、将来キャッシュ・フロー及び割引率を合理的に見積っている。なお、将来、資産グループに使用されている事業に関連して、経営環境に著しい変化が生じ、将来キャッシュ・フロー及び割引率の見積りに修正が必要となる場合には、多額の減損損失を計上する可能性がある。

繰延税金資産の回収可能性の評価

当社グループは繰延税金資産の回収可能性を評価するに際して、将来の課税所得を合理的に見積っている。しかし、繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するので、その見積り額が減少した場合は繰延税金資産が減額され税金費用が計上される可能性がある。

退職給付費用

当社グループの退職給付費用、退職給付債務は、数理計算上設定される前提条件に基づき計算されており、これらの前提条件には、割引率、期待運用収益率、再評価率、昇給率、退職率、死亡率などがある。このうち、割引率は、安全性の高い長期の債券の利回りを基礎として決定しており、また、期待運用収益率は、各年金制度の年金資産運用方針等に基づき決定している。

長期債券の利回りの低下は、割引率の低下をもたらし、退職給付費用の計算に悪影響を及ぼすが、当社が採用しているキャッシュバランス型の年金制度においては、基礎率の一つである再評価率が割引率の低下による悪影響を減殺する効果がある。

また、年金資産の運用利回りが、期待運用収益率を下回る場合には、退職給付費用の計算に悪影響を及ぼすが、安定運用を心掛けている当社及び当社グループの企業年金基金においては、その影響は軽微と考えられる。

(2) 経営成績の分析

当社グループの経営成績は、当連結会計年度において連結売上高は2兆7,464億5千3百万円(前年同期比116.1%)、営業利益は1,138億6千5百万円(前年同期比105.9%)、経常利益は1,193億2千1百万円(前年同期比108.9%)、当期純利益は659億4千5百万円(前年同期比109.0%)となった。これは、減価償却費・研究開発費・諸経費などの増を、原価低減や売上増加、為替差益で吸収したことによるものである。

売上高の分析

当連結会計年度の連結売上高は2兆7,464億5千3百万円であるが、これを事業の種類別セグメントごとに分析すると、「二輪車事業」「四輪車事業」「その他の事業」すべての事業において増収となっている。

「二輪車事業」では、国内売上高は、全体需要が微増のなか、「アドレスV125」などの順調な販売の結果、前連結会計年度を上回った。海外売上高は、「GSX-R1000」などの大型二輪車の好調な販売やアジア地域での現地生産車が増加したことなどにより、前連結会計年度を上回った。以上の結果、「二輪車事業」の売上高は5,613億6百万円(前年同期比121.9%)となった。

「四輪車事業」では、国内は、小型車「スイフト」の順調な販売に加え、新型SUV「エスクード」の発売、軽自動車にあっては「ワゴンR」の順調な販売に加え、「エブリイ」「MRワゴン」の発売など、商品力の強化をはかり拡販に努めた結果、前連結会計年度を上回った。海外は、世界戦略車としてハンガリー、インド、中国で生産・販売を開始した「スイフト」、日本からの輸出を開始した「グランドピターラ」（エスクードの輸出名）の好調な販売などにより、前連結会計年度を上回った。以上の結果、「四輪車事業」の売上高は2兆1,199億4千万円(前年同期比114.9%)となった。

「その他の事業」の売上高は、652億6百万円(前年同期比110.1%)となった。

販売費及び一般管理費の分析

当連結会計年度の販売費及び一般管理費は5,998億5千5百万円で、前連結会計年度に比べ764億4千1百万円増加した。売上高の増加に伴い、発送費、広告宣伝費、販売奨励費、製品保証引当金繰入額等の販売費が増加したこと、及び新商品の開発、先進安全技術の開発、燃料電池車など次世代車の開発に取り組んでいることから研究開発費が増加したことなどによる。

営業外損益の分析

当連結会計年度の営業外損益は、受取利息の増加などにより差引54億5千5百万円の利益となり、前連結会計年度に比べ34億6千6百万円増益となった。

特別損益の分析

当連結会計年度の特別損益は、減損損失の計上がなく、投資有価証券売却益などから差引25億2千3百万円の利益となったのに対し、前連結会計年度の特別損益は、減損損失を37億7千4百万円計上したことなどにより差引24億7千7百万円の損失であったため、当連結会計年度は前連結会計年度に比べ50億1百万円の増益となった。

(3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度より276億1千5百万円多い2,400億4千3百万円となった。これは、税金等調整前当期純利益、及び減価償却費が増加したことが主な要因である。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度より218億8千7百万円支出が減少し、1,042億1千5百万円の支出となった。これは、有形固定資産の取得による支出は増加したが、預入期間が3か月を超える定期預金の運用残高が減少したことなどによる。

財務活動によるキャッシュ・フローは、インドにおいて設備資金借入を行った一方で、GMグループの当社への出資比率変更に伴う自己株式を、手元資金を活用することで2,268億1千5百万円取得したことなどにより、前連結会計年度より1,166億6千7百万円支出が増加し、1,607億2千5百万円の資金が減少した。

以上の結果、当連結会計年度の現金及び現金同等物の期末残高は2,166億2千3百万円となり、前

連結会計年度に比較して147億7千4百万円減少した。

資金需要

当連結会計年度は、新機種投資、生産対策及び合理化・省力化投資等、また、新商品・新技術開発のための研究開発投資、販売拠点投資、情報関連投資等、主要関連会社を含む総額で2,459億8百万円（内、主要関連会社は585億2千8百万円）の設備投資を行った。当該支出は主に内部留保でまかなっている。

なお、当連結会計年度後1年間の設備投資計画は主要関連会社を含む総額で2,600億円（内、主要関連会社は400億円）であるが、その所要資金については、主に自己資金を充当する予定であるが、転換社債型新株予約権付社債の発行など、各々最適な手段を選択することとしている。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資は、新機種投資、生産対策及び合理化・省力化投資等、また、新商品・新技術開発のための研究開発投資、販売拠点投資、情報関連投資等を行った。設備投資額は主要関連会社を含む総額で2,459億8百万円であった。

事業の種類別セグメントごとの内訳は、次のとおりである。

事業の種類別 セグメントの名称	当連結会計年度 (百万円)	設備内容
二輪車事業	32,069 (2,574)	二輪車の生産設備、研究開発設備、販売設備等
四輪車事業	211,738 (55,935)	四輪車の生産設備、研究開発設備、販売設備等
その他の事業	2,100 (19)	船外機の生産設備、研究開発設備、販売設備等
合計	245,908 (58,528)	

(注) 主要関連会社の金額を()内に内数で記載している。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成18年3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 備品	合計	
本社及び 高塚工場 (静岡県浜松市)	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	統括業務施設及 びエンジン部品 生産設備	6,596	6,391	744 (197) [5]	3,552	17,285	4,696
磐田工場 (静岡県磐田市)	四輪車事業	生産設備	5,779	14,078	1,320 (297) [2]	4,149	25,326	1,342
大須賀工場 (静岡県掛川市)	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	鋳造部品生産設 備	1,812	3,746	710 (148)	833	7,103	367
湖西工場及び 部品工場 (静岡県湖西市)	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	生産設備	14,137	12,192	7,772 (1,144) [3]	5,450	39,552	2,150
豊川工場 (愛知県豊川市)	二輪車事業 その他の事業	生産設備	1,532	1,303	571 (187)	1,180	4,588	622
相良工場及び 相良コース (静岡県 牧之原市)	四輪車事業	エンジン部品生 産設備及び製品 の試験施設	6,729	9,854	9,851 (1,956)	608	27,044	882
竜洋コース (静岡県磐田市)	二輪車事業 四輪車事業	製品の試験施設	2,048	1,896	2,863 (689) [5]	301	7,109	520
横浜研究室 (神奈川県 横浜市都筑区)	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	研究開発施設	586	55	3,320 (14)	88	4,051	43
代理店他 (全国)	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	販売設備他	10,321	84	34,343 (542) [34]	3	44,753	

(注) 1 帳簿価額には消費税等を含まない。

2 「本社及び高塚工場」「磐田工場」「湖西工場及び部品工場」「竜洋コース」「代理店他」は、土地及び建物等の一部を賃借している。賃借料は122百万円、土地の面積は[]で外書きしている。

3 「本社及び高塚工場」「磐田工場」「湖西工場及び部品工場」「豊川工場」は、子会社に対する貸与中の土地74百万円(17千㎡)を含む。

4 「代理店他」は、貸与中の土地32,025百万円(437千㎡)、建物他9,445百万円を含み、その内、㈱スズキ自販近畿等の子会社に対する貸与は土地29,624百万円(413千㎡)、建物他8,752百万円である。

5 現在、休止中の主要な設備はない。

(2) 国内子会社

平成18年3月31日現在

会社名 (主な所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 備品	合計	
㈱スズキ自販近畿 他販売会社60社 (全国)	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	販売設備	12,655	13,975	27,718 (510) [568]	1,191	55,540	9,859
㈱スズキビジネス (静岡県浜松市)	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	販売設備 他	3,625	228	7,527 (1,844) [67]	174	11,555	260
㈱スズキ部品浜松 (静岡県磐田市)	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	生産設備	1,828	5,892	1,836 (64)	699	10,257	260

(注) 1 帳簿価額には消費税等を含まない。

2 「㈱スズキ自販近畿他販売会社60社」には、貸与中の土地952百万円(16千㎡)、建物等269百万円を含んでいる。

3 「㈱スズキ自販近畿他販売会社60社」は、土地及び建物等の一部を賃借している。賃借料は3,903百万円である。土地の面積については、[]で外書きしている。

4 「㈱スズキビジネス」には、貸与中の土地2,823百万円(68千㎡)、建物等850百万円を含んでいる。

5 「㈱スズキビジネス」は、土地及び建物等の一部を賃借している。賃借料は113百万円である。土地の面積については、[]で外書きしている。

(3) 在外子会社

平成18年3月31日現在

会社名 (主な所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 備品	合計	
Maruti Udyog Ltd. (インド ニューデリー市)	四輪車事業	生産設備 他	5,688	35,189	4,989 (3,639)	453	46,320	3,884
PT Indomobil Suzuki International (インドネシア ジャカルタ市)	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	生産設備 他	2,454	17,397	1,966 (786)	356	22,174	4,864
Magyar Suzuki Ltd. (ハンガリー エステルゴム市)	二輪車事業 四輪車事業	生産設備 他	9,138	24,020	435 (581)	20,156	53,751	3,305
American Suzuki Motor Corp. (米国 プレア市)	二輪車事業 四輪車事業 その他の事業	販売設備	1,982	181	1,058 (259)	601	3,823	613

(注) 1 「American Suzuki Motor Corp.」には、貸与中の土地154百万円(35千㎡)、建物126百万円を含んでいる。

2 「Maruti Udyog Ltd.」「PT Indomobil Suzuki International」「Magyar Suzuki Ltd.」の数値は各社の連結決算数値である。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当社グループの設備投資は、各市場における需要予測、生産計画、利益計画、キャッシュ・フロー等を総合的に勘案して計画している。

当連結会計年度後1年間の設備投資計画は、主要関連会社を含む総額で2,600億円であり、概要は次のとおりである。その所要資金については、主に自己資金を充当する予定であるが、各々最適な手段を選択することとしている。

区分	平成18年3月末 計画金額(百万円)	設備等の内容
提出会社		
高塚工場・磐田工場・湖西工場他	73,000	二輪車・四輪車・船外機・部品等の生産設備
実験試験研究設備	13,500	研究開発設備
流通・販売拠点設備	5,000	販売設備等
その他	8,500	統括業務施設・情報化設備等
小計	100,000	
国内子会社及び主要関連会社	20,000	生産・販売設備等
在外子会社及び主要関連会社	140,000	生産・販売設備等
合計	260,000 (40,000)	

- (注) 1 上記金額には、消費税等は含まれていない。
2 主要関連会社の金額を()内に内数で記載している。

なお、事業の種類別セグメントごとの内訳は次のとおりである。

事業の種類別 セグメントの名称	平成18年3月末 計画金額(百万円)	設備等の内容
二輪車事業	44,000	二輪車の生産設備、研究開発設備、販売設備等
四輪車事業	212,000	四輪車の生産設備、研究開発設備、販売設備等
その他の事業	4,000	船外機の実験設備、研究開発設備、販売設備等
合計	260,000 (40,000)	

- (注) 主要関連会社の金額を()内に内数で記載している。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項なし。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	会社が発行する株式の総数(株)
普通株式	1,500,000,000
計	1,500,000,000

(注) 株式の消却が行われた場合にはこれに相当する株式数を減ずる旨を定款に定めている。
 なお、平成18年6月29日開催の定時株主総会において定款の一部変更が行われ、当該定めは削除された。

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成18年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成18年6月30日)	上場証券取引所名又は 登録証券業協会名	内容
普通株式	542,647,091	542,647,091	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
計	542,647,091	542,647,091		

(注) 「提出日現在発行数」には、平成18年6月1日から同年6月30日までの間に旧商法に基づく転換社債の転換により発行された株式数は含まれていない。

(2) 【新株予約権等の状況】

当社は、旧商法第341条ノ2の規定に基づき転換社債を発行している。当該転換社債の残高、転換価格及び資本組入額は、次のとおりである。

銘柄(発行日)	事業年度末現在 (平成18年3月31日)			提出日の前月末現在 (平成18年5月31日)		
	転換社債 の残高 (百万円)	転換価格 (円)	資本組入額 (円)	転換社債 の残高 (百万円)	転換価格 (円)	資本組入額 (円)
第3回無担保転換社債 (平成14年3月22日発行)	29,991	2,000	1,000	29,991	2,000	1,000

(3) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成14年3月31日 (注) 1	350	541,082	106	119,736	105	126,105
平成15年3月31日 (注) 2	1,565	542,647	474	120,210	472	126,577

(注) 1 転換社債の株式転換(平成13年4月1日～平成14年3月31日)によるものである。

2 転換社債の株式転換(平成14年4月1日～平成15年3月31日)によるものである。

(4) 【所有者別状況】

平成18年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の 状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	証券会社	その他 の法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		159	36	528	384	10	26,252	27,369	
所有株式数 (単元)		1,679,744	34,287	479,593	1,942,522	133	1,288,800	5,425,079	139,191
所有株式数 の割合(%)		30.96	0.63	8.84	35.81	0.00	23.76	100.00	

(注) 1 自己株式101,320,088株は、「個人その他」の欄に1,013,200単元と「単元未満株式の状況」の欄に88株がそれぞれ含まれている。

2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が19単元含まれている。

(5) 【大株主の状況】

平成18年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1-2-1	20,961	3.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	19,848	3.66
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	16,787	3.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	16,748	3.09
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン (常任代理人) 株式会社みずほコーポレート銀行 兜町証券決済業務室	英国ロンドン市コールマンズトリー ウールゲートハウス (常任代理人) 東京都中央区日本橋兜町6-7	16,441	3.03
ゼネラル モーターズ オブ カナダ リミテッド (常任代理人) 日本ゼネラルモーターズ株式会社	カナダ オンタリオ州オシャワ市カー ネル サム ドライブ1908 (常任代理人) 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー27F	16,300 (15,476)	3.00 (2.85)
メリルリンチ日本証券株式会社	東京都中央区日本橋1-4-1 日本橋一丁目ビルディング	(824)	(0.15)
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	13,000	2.40
株式会社静岡銀行	静岡県静岡市葵区呉服町1-10	12,830	2.36
株式会社損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿1-26-1	9,500	1.75
ジェーピーエムシービー オムニバ ス ユーエス ペンション トリーテ ィー ジャスデック 380052 (常任代理人) 株式会社みずほコーポレート銀行 兜町証券決済業務室	米国 ニューヨーク州ニューヨーク (常任代理人) 東京都中央区日本橋兜町6-7	8,368	1.54
計		150,787	27.79

(注) 1 上記のほか、当社が保有している自己株式101,320千株がある。

2 キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー及びその共同保有者(キャピタル・ガー
ディアン・トラスト・カンパニー、キャピタル・インターナショナル・リミテッド、キャピタル・イン
ターナショナル・エス・エイ、キャピタル・インターナショナル・インク)は、平成17年5月13日付で
提出された大量保有報告書(変更報告書)によると、平成17年5月9日現在で 65,139千株所有している。
それぞれの会社の所有株式数は以下のとおりであるが、その確認ができないため大株主の表に含めてい
ない。

キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー	17,712	千株
キャピタル・ガーディアン・トラスト・カンパニー	36,434	"
キャピタル・インターナショナル・リミテッド	6,261	"
キャピタル・インターナショナル・インク	3,773	"
キャピタル・インターナショナル・エス・エイ	958	"

3 所有株式数及び所有株式数の割合における()内は、それぞれの常任代理人における内数を表示してい
る。

4 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託
口)が所有する当社株式は、信託業務に係わる株式である。

5 前事業年度末現在主要株主であったゼネラル モーターズ オブ カナダ リミテッドは、当事業年度末に
おいては主要株主ではなくなっている。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成18年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 101,320,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 147,200		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 441,040,700	4,410,407	同上
単元未満株式	普通株式 139,191		同上
発行済株式総数	542,647,091		
総株主の議決権		4,410,407	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1,900株(議決権19個)含まれている。

2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式88株及び浜名部品工業㈱(議決権に対する所有割合35.7%)所有の株式48株が含まれている。

【自己株式等】

平成18年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) スズキ株式会社	静岡県浜松市高塚町 300番地	101,320,000		101,320,000	18.67
(相互保有株式) 浜名部品工業株式会社	静岡県湖西市鷺津 933番地の1	147,200		147,200	0.03
計		101,467,200		101,467,200	18.70

(7) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

2 【自己株式の取得等の状況】

(1) 【定時総会決議又は取締役会決議による自己株式の買受け等の状況】

【前決議期間における自己株式の取得等の状況】

【株式の種類】 普通株式

イ【定時総会決議による買受けの状況】

該当事項なし。

ロ【子会社からの買受けの状況】

該当事項なし。

ハ【取締役会決議による買受けの状況】

区分	株式数(株)	平成18年6月30日現在
		価額の総額(円)
取締役会での決議状況 (平成18年3月6日決議)	92,360,000	229,976,400,000
前決議期間における取得自己株式	91,090,500	226,815,345,000
残存決議株式数及び価額の総額	1,269,500	3,161,055,000
未行使割合(%)	1.37	1.37

ニ【取得自己株式の処理状況】

区分	処分、消却又は 移転株式数(株)	平成18年6月30日現在
		処分価額の総額(円)
新株発行に関する手続きを準用する処分 を行った取得自己株式	5,000,000	10,481,000,000
消却の処分を行った取得自己株式		
合併、株式交換、会社分割に係る取得自 己株式の移転		

ホ【自己株式の保有状況】

区分	平成18年6月30日現在
	株式数(株)
保有自己株式数	106,090,500

【当定時株主総会における自己株式取得に係る決議状況】

該当事項なし。

(2) 【資本減少、定款の定めによる利益による消却又は償還株式の消却に係る自己株式の買受け等の状況】

【前決議期間における自己株式の買受け等の状況】

該当事項なし。

【当定時株主総会における自己株式取得に係る決議状況等】

該当事項なし。

3 【配当政策】

当社の配当政策については、継続的な安定配当を基本とし、あわせて中・長期的な視点から、業績、配当性向、企業体質の一層の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを勘案して決定している。

当社グループの業績は、発展途上国を中心とした海外生産工場への依存度が高く、為替変動にも左右されやすい構造にある。さらに、当社グループは、今後、こうした海外拠点での積極的な設備投資を計画している。これからも当社グループが、安定的に成長していくためには、当社の体力をより強化し、不測の事態に備えることが重要である。

このような状況の中で、当事業年度の配当金については、自己株式取得による配当金の減少分を株主の皆様へ還元するため、1株につき普通配当10円（うち中間配当金5円）に、特別配当1円を加えた11円とした。

この結果、当事業年度の配当性向は15.5%、株主資本配当率は1.5%となった。

(注) 第140期の中間配当に関する取締役会決議年月日は、平成17年10月31日である。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第136期	第137期	第138期	第139期	第140期
決算年月	平成14年3月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月	平成18年3月
最高(円)	1,743	1,670	1,841	1,989	2,800
最低(円)	920	1,185	1,355	1,591	1,641

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものである。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成17年10月	平成17年11月	平成17年12月	平成18年1月	平成18年2月	平成18年3月
最高(円)	2,140	2,330	2,280	2,420	2,395	2,800
最低(円)	1,921	2,075	2,130	2,060	2,190	2,320

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものである。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)		鈴木 修	昭和5年1月30日生	昭和33年4月 昭和38年1月 昭和38年11月 昭和42年12月 昭和48年11月 昭和53年6月 平成12年6月	当社入社 購買部長 当社取締役就任 当社常務取締役就任 当社専務取締役就任 当社代表取締役社長就任 当社代表取締役会長就任(現)	529
取締役社長 (代表取締役)	二輪・特機技術 部門主担当	津田 紘	昭和20年2月5日生	昭和44年3月 平成9年4月 平成9年6月 平成12年6月 平成14年1月 平成15年4月	当社入社 小型プロジェクト長 当社取締役就任 当社常務取締役就任 当社代表取締役専務取締役就任 当社代表取締役社長就任(現)	32
取締役	四輪技術部門主担当 二輪・特機技術部門 副担当 品質保証部門副担当 購買部門副担当	中山 隆志	昭和19年11月27日生	昭和44年3月 平成9年4月 平成9年6月 平成15年6月 平成16年6月 平成18年6月	当社入社 海外技術部長 当社取締役就任 当社常務取締役就任 当社専務取締役就任 当社取締役兼専務役員就任(現)	17
取締役	海外営業部門主担当 四輪技術部門副担当 二輪・特機技術部門 副担当 海外生産部門副担当 兼 インド事業担当	中西 眞三	昭和22年9月14日生	昭和46年4月 平成10年10月 平成11年6月 平成15年6月 平成16年6月 平成18年6月	当社入社 GM業務部長 当社取締役就任 当社常務取締役就任 当社専務取締役就任 当社取締役兼専務役員就任(現)	9
取締役	品質保証部門主担当 海外営業部門副担当 兼 四輪品質保証部 長	坂本 昭博	昭和23年7月4日生	昭和46年4月 平成13年1月 平成13年6月 平成15年6月 平成18年6月	当社入社 四輪商品企画グループ長 当社取締役就任 当社常務取締役就任 当社取締役兼専務役員就任(現)	9
取締役	東京駐在・広報部門 主担当 管理部門副担当	廣澤 孝夫	昭和21年8月14日生	昭和44年4月 昭和58年7月 平成9年7月 平成10年6月 平成11年1月 平成15年3月 平成15年4月 平成15年6月 平成18年6月	通商産業省入省 日本貿易振興会(JETRO)ブラッセル事務所長 通商産業省関東通商産業局長 通商産業省退官 地域振興整備公団 理事就任 同理事退任 当社入社 管理本部付参与 当社取締役就任 当社常務取締役就任 当社取締役兼専務役員就任(現)	5
取締役	生産技術部門主担当 購買部門副担当 国内生産部門副担当 海外生産部門副担当	鈴木 和夫	昭和21年9月27日生	昭和44年3月 平成15年10月 平成16年6月 平成17年6月 平成18年6月	当社入社 生産本部長 当社取締役就任 当社常務取締役就任 当社取締役兼専務役員就任(現)	4
取締役	国内営業部門主担当 品質保証部門副担当 国内生産部門副担当 兼 小型四輪担当	繁本 武雄	昭和23年3月11日生	昭和45年4月 平成16年4月 平成16年6月 平成17年6月 平成18年6月	当社入社 東日本四輪営業統括部長 当社取締役就任 当社常務取締役就任 当社取締役兼専務役員就任(現)	7
取締役	海外営業部門副担当 四輪技術部門副担当 二輪・特機技術部門 副担当 海外生産部門副担当	小野 浩孝	昭和30年8月26日生	昭和54年4月 平成10年6月 平成13年5月 平成13年6月 平成18年6月	通商産業省(現経済産業省)入省 産業政策局企業行動課長 経済産業省退官 当社入社 海外営業付参与 当社取締役就任 当社取締役兼専務役員就任(現)	13

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (千株)
取締役	国内営業部門副担当 兼 子会社(株)スズキ 自販浜松代表取 締役社長 兼 子会社(株)スズキ 自販静岡代表取 締役会長 兼 総括地区担当	田村 実	昭和23年6月21日生	昭和47年4月 平成15年4月 平成15年6月 平成17年4月 平成18年6月	当社入社 西日本営業統括部長 当社取締役就任 子会社(株)スズキ自販浜松 代表取 締役社長 兼 子会社(株)スズキ自販 静岡 代表取締役会長を兼務 当社取締役兼専務役員就任(現)	8
取締役	購買部門主担当 四輪技術部門副担当 海外生産部門副担当 兼 購買管理部長	望月 英二	昭和30年3月5日生	昭和59年2月 平成15年4月 平成15年6月 平成18年6月	当社入社 商品開発統括部長 兼 商品第二プ ロジェクト長 当社取締役就任 当社取締役兼専務役員就任(現)	4
取締役	四輪技術部門副担当 国内営業部門副担当 兼 商品企画 兼 小型担当 兼 商品第四カーラ インチーフエン ジニア	鈴木 俊宏	昭和34年3月1日生	昭和58年4月 平成5年12月 平成6年1月 平成10年4月 平成12年4月 平成13年4月 平成15年4月 平成15年6月 平成18年6月	日本電装(株)入社 同社退社 当社入社 湖西工場 第一工場次長 磐田工場長 General Motors Corp. 駐在 商品企画統括部長 兼 四輪商品企 画グループ長(参与) 当社取締役就任 当社取締役兼専務役員就任(現)	29
取締役	国内生産部門主担当 生産技術部門副担当 海外生産部門副担当 兼 イオ インダスト リー(株)代表取締 役社長	國清 巧	昭和21年10月2日生	昭和43年1月 平成15年4月 平成16年6月 平成17年11月 平成18年6月	当社入社 生産本部工場担当参与 当社監査役就任 当社監査役退任 当社取締役兼専務役員就任(現)	2
取締役	管理部門主担当 東京駐在・広報部門 副担当 購買部門副担当 兼 子会社(株)スズ キ・サポート代 表取締役社長	杉本 豊和	昭和22年3月16日生	昭和48年4月 平成16年4月 平成16年6月 平成18年6月	当社入社 経営企画統括部長 当社取締役就任 当社取締役兼専務役員就任(現)	4
常勤監査役		神村 保	昭和21年5月13日生	昭和45年4月 平成16年4月 平成16年6月	当社入社 経営企画統括部付参与 当社監査役就任(現)	8
常勤監査役		堀内 伸恭	昭和20年4月21日生	昭和45年4月 平成10年6月 平成12年6月 平成13年9月 平成14年3月 平成15年6月 平成16年6月	(株)協和銀行(現(株)りそな銀行)入行 同行取締役就任 同行常務執行役員就任 同行専務執行役員就任 同行専務執行役員退任 昭和リース(株)代表取締役副社長就 任 同社代表取締役社長就任 同社代表取締役社長退任 当社監査役就任(現)	0
常勤監査役		久米 克彦	昭和19年6月1日生	昭和44年4月 平成3年1月 平成11年6月 平成12年6月 平成14年4月 平成15年6月 平成16年3月 平成16年6月	(株)東海銀行 入行 スイス東海銀行 頭取就任 (株)東海銀行 退行 (株)東海総合研究所 取締役就任 同所常務取締役就任 (株)U F J 総合研究所 取締役就任 同所常勤監査役就任 同所常勤監査役退任 子会社(株)スズキビジネス 常勤監査 役就任 当社監査役就任(現)	0

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
監査役		石塚 伸	昭和22年6月16日生	昭和56年4月 司法研修所入所 昭和58年4月 弁護士登録 昭和59年10月 石塚村松法律事務所入所 平成6年6月 当社監査役就任(現)	
監査役		小杉 和弘	昭和29年5月6日生	昭和52年4月 当社入社 昭和18年4月 秘書室特命グループ 富士山静岡 空港株式会社駐在 平成18年6月 当社監査役就任(現)	3
計					690

- (注) 1 監査役 堀内伸恭、久米克彦及び石塚 伸は、会社法第2条第16号に定める「社外監査役」である。
2 取締役 鈴木俊宏は、取締役会長 鈴木 修の長男である。
3 取締役 小野浩孝は、取締役会長 鈴木 修の長女の配偶者である。
4 当社では専務役員・常務役員制度を導入している。専務役員・常務役員は上記記載の取締役12名の他、以下の19名である。

専務役員	水口 忠一	海外生産部門主担当 海外営業部門副担当 生産技術部門副担当 国内生産部門副担当
専務役員	中村 雄一	海外生産部門 中国・米州担当
専務役員	小林 恒雄	海外営業部門 インド・パキスタン生産担当 兼 子会社Maruti Suzuki Automobiles India Ltd.社長
専務役員	桐山 京平	国内営業部門副担当 兼 子会社スズキファイナンス㈱代表取締役社長
専務役員	和久田 俊一	金型担当 兼 子会社㈱エステック代表取締役社長
常務役員	小杉 昭夫	四輪技術部門 横浜駐在
常務役員	濱田 茂明	子会社Suzuki Powertrain India Ltd.社長
常務役員	渥美 正紀	実験担当 兼 デジタルエンジニアリング部長 兼 技術管理部長
常務役員	鈴木 昭光	軽四輪担当 兼 軽四輪東日本営業部長
常務役員	小林 勝	子会社㈱スズキ自販福岡代表取締役社長 兼 総括地区担当
常務役員	竹内 慎一	子会社Maruti Udyog Ltd.副社長
常務役員	相澤 直樹	国内生産部門副担当
常務役員	鈴山 隆司	子会社㈱スズキ自販近畿代表取締役社長 兼 総括地区担当
常務役員	松永 和己	海外営業業務部長 兼 二輪総括グループ長
常務役員	井口 寛則	二輪・特機技術部門副担当
常務役員	彌吉 正文	東京支店長
常務役員	本田 治	パワートレイン担当 兼 商品第六カーラインチーフエンジニア
常務役員	青山市 三	次世代パワートレイン担当 兼 次世代パワートレイン開発部長 兼 第二グループ長 兼 軽量化技術開発グループ長
常務役員	蓮池 利昭	商品企画 兼 軽担当 兼 商品第二カーラインチーフエンジニア

6 【コーポレート・ガバナンスの状況】

(1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、従来より、公正かつ効率的な企業活動を旨として、株主各位をはじめ、お客様、お取引先様、地域社会、従業員等の各ステークホルダーから信頼され、かつ国際社会の中で更なる貢献をし、持続的に発展していく企業でありたいと考えている。その実現のためには、コーポレート・ガバナンスの強化が経営の最重要課題の一つであると認識し、様々な対策に積極的に取り組んでいる。

(2) 会社の機関の内容

取締役・取締役会について

これまで当社は、取締役29名にて経営の基盤づくりと安定的成長を遂げてきた。しかし、海外の比重が飛躍的に高まる中、当社グループが益々発展していくために「スズキ中期5ヶ年計画（平成17年4月～平成22年3月）」を策定し、1年を経過したが、より機動的な会社運営・業務のスピードアップと責任体制の明確化を図るため、会社法の施行を機に、コーポレート・ガバナンス強化の観点から会社運営組織の大幅な改革に着手した。具体的には、取締役の数を14名と従来の半数程度とする一方、新たな役員制度（専務役員・常務役員）を導入し、取締役会長及び取締役社長以外の取締役全員が、執行の中心となる専務役員を兼任して取締役会の一員となることにより、現場の情報を取締役会に上げて意思決定に参画できるようにした。また、たて割りの弊害をなくし、経営的な視点から横断的に事業を見ることができるよう、取締役は複数の事業部門を担当している。なお、従来より、取締役の経営責任を明確にし、かつ経営環境の変化に柔軟に対応できるよう、取締役の任期を1年としている。

取締役は、取締役会を原則として毎月1回開催するほか、必要に応じて随時開催しており、また、意思決定に際して法令遵守・企業倫理の観点も含めた議論は十分なものであり、監査役が必ず取締役会に出席することと相俟って、その取締役会の経営監督機能は有効に機能していると考えている。また、経営執行に伴う重要な経営課題についての戦略策定の審議のために必要に応じて経営会議を開催している。更に、取締役が定期的なミーティングを毎週行う等、情報交換を密に行っている。

従来、取締役会の決議は、過半数の取締役の出席を必要とし、出席取締役の過半数をもって決議成立としていたが、今後は、より機動的な意思決定を目指すと同時に、意思決定への実質的全員参加を図るため、いわゆる書面決議制度を導入した。

監査役・監査役会及び内部監査について

当社は監査役設置会社であり、監査役5名のうち3名を社外監査役とし、監査機能の強化に努めている。また、当社は内部監査部門に加えて、国内及び海外の関係会社の監査部門を設置しており、会計監査人による監査と併せて、遵法性、内部統制面、経営効率面の視点から三様の監査を行っている。

監査役については、監査役会規則及び各事業年度の監査役監査方針に基づき、監査役会の開催や取締役会等重要な会議への出席、稟議書・議事録等の閲覧、取締役からの業務の状況についての報告・聴取等により、会社の適正な経営の遂行について監査を行っている。

内部監査については、監査部が、内部統制の有効性を定期的に検証し、その検証結果を、問題点の改善・是正に関する提言とともに監査役及び経営者に報告している。関係会社の監査についても、監査部が、関係会社の経営体質強化のためのルールづくりと法令・ルール遵守のための指導・支援・監査を行い、また、業務の効率化・標準化を推進している。

監査役は、監査部の監査計画ならびに監査テーマの調整を行うほか、必要に応じて監査に立会い、監査報告会に出席し、監査部の行う監査については全ての報告書の提出と説明を受けている。また、監査部と連携して、監査役監査として社内及び子会社監査も実施している。

会計監査について

会計監査については清明監査法人を選任している。監査役は会計監査人から事業年度の監査計画の説明及び中間・期末での決算監査報告のほか、子会社監査についての結果報告を受けている。監査役、監査部、及び会計監査人は、必要に応じ随時情報の交換を行うことで相互の連携を高めている。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
代表社員 業務執行社員 今村 敬	清明監査法人
代表社員 業務執行社員 岩間 昭	清明監査法人

(注) 上記のほか、監査業務に係る補助者は公認会計士7名、その他2名である。

社外監査役との関係について

社外監査役3名と当社との間に特別な利害関係はない。

(3) 内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

コーポレート・ガバナンスの強化のため、コンプライアンスの徹底及び内部統制システムの充実に努めている。平成18年5月15日には、会社法に基づき、内部統制システム構築の基本方針の取締役会決議を行った。内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況は以下のとおりである。

取締役のコンプライアンス体制

取締役は、「社是」及び「スズキ行動憲章」を尊重し、かつ、「取締役会規則」、「稟議規程」その他の社内規程に則り職務を執行し、取締役会等において、相互に職務執行を監督している。また、取締役は複数の事業部門を担当することにより連携を強化し、たて割の弊害をなくすようにしている。更に、取締役及び従業員が法令、社会規範、社内規則等を遵守するための基本事項を定めた「スズキ企業倫理規程」を制定し（平成14年4月）、必要に応じて改訂している。また、監査役は、監査役会の定めた監査の方針及び業務分担に従い、取締役の職務執行について監査の任に就いている。

従業員のコンプライアンス体制

一方、従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するため、従業員の行動規範を定めた「スズキ社員行動憲章」及び従業員の具体的な職務の執行手続きを定めた「稟議規程」、「業務分掌」その他の社内規程を周知徹底し、必要に応じて改訂している。更に、「スズキ企業

倫理規程」に基づき、内部通報制度を含む従業員のコンプライアンス体制を整備し、また、各種の研修、社内セミナー等を通じ従業員に対するコンプライアンス教育を実施している。また、監査部は、「内部監査規程」に則り、各管理制度、組織及び規程等が適切であるか、内部統制機能が適正に機能しているか等を監査している。

リスク管理体制

会社内外の不正や不法行為により発生しうる危機や、会社が予防することのできない天災・テロといった危機の発生に対応するために、「スズキ企業倫理規程」において「危機管理手続」を定めている。「企業倫理委員会」が、会社の経営または業務に緊急かつ重大な影響を与えられとされるリスクを認知したときは、「危機管理手続」に基づき、直ちに当該危機への対策にあたる組織として、「危機管理本部」を設置する。設置された「危機管理本部」は、直ちに対策方針を審議・決定し、必要な部門及び部署に指示を与え、連絡を取り合って解決を図る体制をとっている。

企業集団の業務の適正を確保するための体制

当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するため、当社は、「関係会社業務管理規程」を定め、必要に応じて改訂している。本規程に則り、関係会社は、経営状況の報告や重要事項の協議を行い、これに対して、当社担当部門は、関係会社の経営体質強化のための指導・助言を行う。また、監査部は、関係会社のためのルールづくりと法令・ルール遵守のための指導・支援・監査を行うとともに、業務の効率化・標準化を推進している。

(4) 役員報酬の内容

当事業年度に取締役及び監査役へ支払った報酬の内容は次のとおりである。

区 分	取締役		監査役		計	
	支給人員 (名)	支給額 (百万円)	支給人員 (名)	支給額 (百万円)	支給人員 (名)	支給額 (百万円)
株主総会決議に基づく報酬	30	505	5	52	35	558
利益処分による役員賞与	29	175	5	25	34	200
計		680		77		758

(注) 上記のほか、報酬その他の職務遂行の対価である財産上の利益の額として次の支払いがある。

- 1 役員退職慰労金規則に基づく役員年金額として、退任取締役に対し4百万円の支払いがある。
- 2 役員退職慰労金規則に基づく役員年金額として、退任監査役に対し1百万円の支払いがある。
- 3 使用人兼務取締役の使用人給与相当額（賞与含む）として、258百万円の支払いがある。

(5) 監査報酬の内容

当社が会計監査人に支払うべき報酬等の合計額 39百万円

の合計額のうち、監査証明業務の対価として

会計監査人に支払うべき報酬等の合計額 39百万円

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律に基づく監査と証券取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、これらの合計額を記載している。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成している。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成している。

2 監査証明について

当社は、証券取引法第193条の2の規定に基づき、前連結会計年度（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）及び前事業年度（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）並びに当連結会計年度（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）及び当事業年度（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）の連結財務諸表及び財務諸表について、清明監査法人により監査を受けている。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成17年3月31日)		当連結会計年度 (平成18年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(資産の部)					
流動資産					
1 現金及び預金		248,679		182,895	
2 受取手形及び売掛金		221,052		249,425	
3 有価証券		79,794		82,115	
4 たな卸資産		287,777		354,687	
5 繰延税金資産		77,084		95,529	
6 その他		89,258		106,825	
貸倒引当金		3,758		3,768	
流動資産合計		999,887	59.0	1,067,709	57.7
固定資産					
1 有形固定資産	1,3				
(1) 建物及び構築物		99,534		107,025	
(2) 機械装置及び運搬具		165,641		191,636	
(3) 工具器具備品		38,741		45,317	
(4) 土地		149,112		155,756	
(5) 建設仮勘定		16,853		41,555	
有形固定資産合計		469,883	27.8	541,293	29.3
2 無形固定資産					
(1) 連結調整勘定		5,294		3,105	
(2) その他		2,561		3,123	
無形固定資産合計		7,855	0.5	6,229	0.3
3 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	4	109,316		127,994	
(2) 長期貸付金		5,186		5,106	
(3) 繰延税金資産		84,711		73,922	
(4) その他		17,286		28,223	
株式評価引当金		87		49	
貸倒引当金		686		716	
投資その他の資産合計		215,727	12.7	234,481	12.7
固定資産合計		693,466	41.0	782,004	42.3
資産合計		1,693,353	100.0	1,849,714	100.0

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成17年3月31日)		当連結会計年度 (平成18年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(負債の部)					
流動負債					
1		384,460		505,129	
2	1,2	85,756		126,115	
3	1			801	
4		23,213		30,165	
5		30,978		37,163	
6		132,158		145,215	
7		87,256		129,030	
		743,823	43.9	973,619	52.6
流動負債合計					
固定負債					
1	1	7,470		1,068	
2		30,000		29,991	
3		500		40,535	
4		10,916		9,196	
5		53,230		51,598	
6		1,255		1,859	
7		9,107		9,366	
8				956	
9	1	19,747		21,189	
		132,226	7.8	165,762	9.0
		876,050	51.7	1,139,381	61.6
負債合計					
(少数株主持分)					
		72,286	4.3	93,562	5.1
少数株主持分					
(資本の部)					
	5	120,210	7.1	120,210	6.5
		126,578	7.5	129,192	7.0
		513,603	30.3	573,516	31.0
		20,718	1.2	38,285	2.1
		21,066	1.2	1,499	0.1
	6	15,028	0.9	242,934	13.2
		745,016	44.0	616,770	33.3
		1,693,353	100.0	1,849,714	100.0
負債、少数株主持分 及び資本合計					

【連結損益計算書】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)		
		金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)	
売上高			2,365,571	100.0	2,746,453	100.0
売上原価	4		1,734,615	73.3	2,032,732	74.0
売上総利益			630,956	26.7	713,721	26.0
販売費及び一般管理費	1,4		523,413	22.1	599,855	21.8
営業利益			107,542	4.5	113,865	4.1
営業外収益						
1 受取利息		7,290			10,594	
2 受取配当金		1,103			1,177	
3 賃貸料収入		687			718	
4 持分法による投資利益		3,504			3,933	
5 その他の営業外収益		9,143	21,730	0.9	9,043	25,466
営業外費用						
1 支払利息		3,237			3,554	
2 貸与資産減価償却費		218			317	
3 有価証券評価損		3,306			1,307	
4 その他の営業外費用		12,978	19,741	0.8	14,831	20,011
経常利益			109,532	4.6		119,321
特別利益						
1 投資有価証券売却益		1,210			1,845	
2 固定資産売却益	2	572	1,782	0.1	933	2,779
特別損失						
1 固定資産売却損	3	200			218	
2 投資有価証券売却損		7			36	
3 減損損失	5	3,774				
4 その他の特別損失		278	4,260	0.2	255	0.0
税金等調整前当期純利益			107,054	4.5		121,844
法人税、住民税及び事業税		51,241			61,119	
法人税等調整額		15,477	35,763	1.5	21,293	39,826
少数株主利益			10,783	0.5		16,073
当期純利益			60,506	2.6		65,945

【連結剰余金計算書】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
(資本剰余金の部)					
資本剰余金期首残高			126,578		126,578
資本剰余金増加高					
1 自己株式処分差益		0	0	2,613	2,613
資本剰余金期末残高			126,578		129,192
(利益剰余金の部)					
利益剰余金期首残高			458,109		513,603
利益剰余金増加高					
1 当期純利益		60,506	60,506	65,945	65,945
利益剰余金減少高					
1 配当金		2,680		3,195	
2 役員賞与		200		200	
(うち監査役賞与)		(18)		(25)	
3 中間配当金		2,131	5,012	2,637	6,032
利益剰余金期末残高			513,603		573,516

【連結キャッシュ・フロー計算書】

		前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益		107,054	121,844
減価償却費		97,731	126,520
減損損失		3,774	
退職給付引当金の減少額		2,031	1,210
受取利息及び受取配当金		8,394	11,771
支払利息		3,237	3,554
持分法による投資利益		3,504	3,933
有価証券評価損		3,306	1,307
売上債権の増加額		1,312	22,942
たな卸資産の増加額		27,146	54,935
仕入債務の増加額		54,948	115,988
未払費用の増加額		13,757	9,137
その他		10,404	4,075
小計		251,825	287,634
利息及び配当金の受取額		7,964	10,795
利息の支払額		2,893	3,505
法人税等の支払額		44,468	54,881
営業活動によるキャッシュ・フロー		212,427	240,043
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出		55,011	108,942
定期預金の払出による収入		25,652	142,311
有価証券の取得による支出		67,979	68,314
有価証券の売却による収入		99,429	83,582
有形固定資産の取得による支出		128,833	160,256
有形固定資産の売却による収入		1,670	4,005
投資有価証券の取得による支出		1,207	52
投資有価証券の売却による収入		4,836	14,779
出資金の払込による支出			7,921
貸付けによる支出		360	1,747
連結範囲の変更を伴う子会社株式 の取得による支出		1,890	
その他		2,409	1,659
投資活動によるキャッシュ・フロー		126,102	104,215

		前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額		16,747	38,233
長期借入れによる収入			39,472
社債の償還及び長期借入れの 返済による支出		15,407	6,480
配当金の支払額		4,812	5,830
少数株主への配当金の支払額		601	820
自己株式の取得による支出		6,489	235,782
自己株式の売却による収入			10,481
その他		0	
財務活動によるキャッシュ・フロー		44,058	160,725
現金及び現金同等物に係る換算差額		870	9,890
現金及び現金同等物の増減額(減少額)		43,137	15,006
現金及び現金同等物の期首残高		188,259	231,397
新規連結子会社の 現金及び現金同等物の期首残高			232
現金及び現金同等物の期末残高		231,397	216,623

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

項目	前連結会計年度 (自 平成16年 4月 1日 至 平成17年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年 4月 1日 至 平成18年 3月31日)
1 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社の数 135社 連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略した。 異動の状況 新規連結 8社 (新規設立) ・スズキ岡山販売(株) ・(株)スズキ化成 ・(株)スズキ・サポート 他3社 (第三者割当増資引受による異動) ・Suzuki Motorcycle India Private Limited (株式買取による異動) ・Suzuki Motor de Mexico, S.A.de C.V.(持分法適用関連会社より異動) 連結除外 25社 (合併による除外) ・(株)スズキアリーナ高槻 他23社 (出資金売却による除外) ・Suzuki do Brasil Automotores Limitada</p> <p>(2) 非連結子会社の名称等 非連結子会社の名称 鈴木自動車工業(株) (連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社1社は小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等はいずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためである。</p> <p>(3) 他の会社等の議決権の過半数を自己の計算において所有しているにもかかわらず子会社としなかった当該他の会社等の名称 Lion Suzuki Marketing Sdn.Bhd. (子会社としなかった理由) 当社は、当該他の会社の議決権の51%を所有しているが、一時的な所有分を含んでいるためである。</p>	<p>(1) 連結子会社の数 135社 連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略した。 異動の状況 新規連結 4社 (新規設立) ・Maruti Suzuki Automobiles India Ltd. ・Suzuki Finance Europe B.V. (株式買取による増加) ・Okroshegy Estate 2004. Kft. (株式買取による異動) ・Lion Suzuki Marketing Sdn.Bhd.(持分法適用関連会社より異動) 連結除外 4社 (合併による除外) ・スズキ直納(株)(大阪) (株式売却による除外) ・Suzuki Manufacturing Spain, S.A. (清算による除外) ・Suzuki Slovakia Spol.s.r.o. ・Suzuki Europe S.A.</p> <p>(2) 非連結子会社の名称等 非連結子会社の名称 同 左 (連結の範囲から除いた理由) 同 左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
2 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法適用の非連結子会社数 該当なし</p> <p>(2) 持分法適用の関連会社数 26社 主要な会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略した。 異動の状況 新規持分法適用 1社 (新規設立) ・Suzuki Automobile Schweiz AG 持分法適用除外 2社 (株式買取による連結子会社への異動) ・Suzuki Motor de Mexico, S.A.de C.V.(新規連結会社) (出資金売却による除外) ・南京金城鈴木摩托車有限公司</p> <p>(3) 持分法を適用していない非連結子会社 1社(鈴木自動車工業株)は、連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性が乏しいため持分法の適用範囲から除外している。</p> <p>(4) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用している。</p>	<p>(1) 持分法適用の非連結子会社数 同 左</p> <p>(2) 持分法適用の関連会社数 25社 主要な会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略した。 異動の状況 持分法適用除外 1社 (株式買取による連結子会社への異動) ・Lion Suzuki Marketing Sdn.Bhd.(新規連結会社)</p> <p>(3) 同 左</p> <p>(4) 同 左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
3 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p>(1) 連結子会社のうち、50社の決算日は12月31日であるが、うち11社については3月31日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表で連結している。その他の39社については、連結決算日との間に生じた取引について連結決算上重要な影響を与えないため、各社の財務諸表に基づいて連結している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮決算を実施して連結している会社 American Suzuki Motor Corp. Magyar Suzuki Corp. 他9社 ・各社の財務諸表に基づいて連結している会社 PT Indomobil Suzuki International Pak Suzuki Motor Co.,Ltd. Thai Suzuki Motor Co.,Ltd. 他36社 <p>(2) その他の連結子会社の決算日は、連結決算日と同一である。</p>	<p>(1) 連結子会社のうち、50社の決算日は12月31日であるが、うち12社については3月31日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表で連結している。その他の38社については、連結決算日との間に生じた取引について連結決算上重要な影響を与えないため、各社の財務諸表に基づいて連結している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮決算を実施して連結している会社 American Suzuki Motor Corp. Magyar Suzuki Ltd. 他10社 ・各社の財務諸表に基づいて連結している会社 PT Indomobil Suzuki International Pak Suzuki Motor Co.,Ltd. Thai Suzuki Motor Co.,Ltd. 他35社 <p>(2) 同 左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
4 会計処理基準に関する事項	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(イ)有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定)</p> <p>時価のないもの 移動平均法による原価法</p> <p>(ロ)デリバティブ 時価法</p> <p>(ハ)たな卸資産 主として総平均法による低価法によっている。</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>(イ)有形固定資産 当社及び国内連結子会社は主として定率法、在外連結子会社は主として定額法を採用している。</p> <p>なお、主な耐用年数は以下のとおりである。 建物及び構築物 3～75年 機械装置及び運搬具 3～15年</p> <p>(ロ)無形固定資産 定額法を採用している。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>(イ)貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。</p> <p>(ロ)株式評価引当金 時価のない有価証券及び出資金の損失に備えて、帳簿価額と実質価額との差額を計上している。</p> <p>(ハ)製品保証引当金 販売した製品のアフターサービスに対する費用の支出に備えるため、原則として保証書の約款に従い過去の実績を基礎にして計上している。</p>	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(イ)有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同 左</p> <p>時価のないもの 同 左</p> <p>(ロ)デリバティブ 同 左</p> <p>(ハ)たな卸資産 同 左</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>(イ)有形固定資産 同 左</p> <p>(ロ)無形固定資産 同 左</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>(イ)貸倒引当金 同 左</p> <p>(ロ)株式評価引当金 同 左</p> <p>(ハ)製品保証引当金 同 左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
	<p>(二)退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。 過去勤務債務については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により按分した額を費用処理している。 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により按分した額を、それぞれの発生の翌連結会計年度から費用処理することとしている。</p> <p>(ホ)役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規則に基づき、期末要支給額を計上している。</p> <p>(ヘ)製造物賠償責任引当金 北米向け輸出製品に対して、「製造物賠償責任保険」(PL保険)で補填されない損害賠償金の支払に備えるため、過去の実績を基礎に会社負担見込額を算出計上している。</p> <p>(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は少数株主持分及び資本の部における為替換算調整勘定に含めて計上している。</p>	<p>(二)退職給付引当金 同 左</p> <p>(ホ)役員退職慰労引当金 同 左</p> <p>(ヘ)製造物賠償責任引当金 同 左</p> <p>(ト)リサイクル引当金 当社製品のリサイクル費用に備えるため、販売実績に基づいてリサイクル費用見込額を計上している。</p> <p>(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準 同 左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
	(5) 重要なリース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。	(5) 重要なリース取引の処理方法 同 左
	(6) 重要なヘッジ会計の方法 (イ)ヘッジ会計の方法 主として繰延ヘッジ処理を採用している。なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしているものは振当処理を採用している。 (ロ)ヘッジ手段とヘッジ対象 外貨建取引(売掛債権、予定取引等)の為替相場変動リスクに対して為替予約取引を、債券の受取利息の範囲内での金利変動リスクに対して金利スワップ取引をヘッジ手段として用いている。 (ハ)ヘッジ方針 為替相場及び市場金利の変動によるリスクを回避することを目的としている。ヘッジ取引のうち、為替予約取引についてのリスク管理は主に社内の規程に基づき輸出部門で行っているが、取引があった都度経理部門に報告されており、また、金利スワップについてのリスク管理は主に社内の規程に基づき経理部門が行っている。 (ニ)ヘッジ有効性評価の方法 為替予約取引については、予定取引を含めた外貨建取引において同一金額で同一期日の為替予約を行っているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されており、その判定をもって有効性の判定に代えている。 また、金利スワップ取引については、ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フローの変動を完全に相殺するものと想定できるため、その判定をもって有効性の判定に代えている。	(6) 重要なヘッジ会計の方法 (イ)ヘッジ会計の方法 同 左 (ロ)ヘッジ手段とヘッジ対象 同 左 (ハ)ヘッジ方針 同 左 (ニ)ヘッジ有効性評価の方法 同 左

項目	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
	(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっている。	(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同 左
5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	全面時価評価法を採用している。	同 左
6 連結調整勘定の償却に関する事項	5年間の均等償却を行なっている。	同 左
7 利益処分項目等の取扱いに関する事項	連結剰余金計算書は、連結会計年度中において確定した利益処分に基づいて作成している。	同 左
8 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなる。	同 左

表示方法の変更

<p>前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)</p>
<p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>投資活動によるキャッシュ・フローの「定期預金の払出による収入」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示していたが、金額的重要性が増したため区分掲記している。</p> <p>なお、前連結会計年度の「その他」に含まれる「定期預金の払出による収入」は、252百万円である。</p> <p>注記事項(連結損益計算書関係)</p> <p>「1 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額」において「広告宣伝費」と「販売促進費」の経営管理方法を変更したことに伴い、当連結会計年度より、費目分類を変更している。</p> <p>なお、当連結会計年度において、従来と同一の方法によった場合、「広告宣伝費」は74,866百万円、「販売促進費」は54,617百万円である。</p>	<p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>1 投資活動によるキャッシュ・フローの「出資金の払込による支出」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示していたが、金額的重要性が増したため区分掲記している。</p> <p>なお、前連結会計年度の「その他」に含まれる「出資金の払込による支出」は、2,450百万円である。</p> <p>2 財務活動によるキャッシュ・フローの「自己株式の売却による収入」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示していたが、金額的重要性が増したため区分掲記している。</p> <p>なお、前連結会計年度の「その他」に含まれる「自己株式の売却による収入」は、0百万円である。</p>

注記事項

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成17年3月31日)		当連結会計年度 (平成18年3月31日)																											
1	<p>1 担保資産及び担保付債務 担保に供している資産は、次のとおりである。</p> <table> <tr> <td>たな卸資産</td> <td>500百万円</td> </tr> <tr> <td>有形固定資産</td> <td>11,293 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11,794百万円</td> </tr> </table> <p>担保付債務は、次のとおりである。</p> <table> <tr> <td>短期借入金</td> <td>478百万円</td> </tr> <tr> <td>社債</td> <td>7,470 "</td> </tr> <tr> <td>その他(固定負債)</td> <td>1,067 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9,016百万円</td> </tr> </table>	たな卸資産	500百万円	有形固定資産	11,293 "	計	11,794百万円	短期借入金	478百万円	社債	7,470 "	その他(固定負債)	1,067 "	計	9,016百万円	1	<p>1 担保資産及び担保付債務 担保に供している資産は、次のとおりである。</p> <table> <tr> <td>有形固定資産</td> <td>4,979百万円</td> </tr> </table> <p>担保付債務は、次のとおりである。</p> <table> <tr> <td>短期借入金</td> <td>200百万円</td> </tr> <tr> <td>一年以内償還社債</td> <td>801 "</td> </tr> <tr> <td>社債</td> <td>1,068 "</td> </tr> <tr> <td>その他(固定負債)</td> <td>990 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,059百万円</td> </tr> </table>	有形固定資産	4,979百万円	短期借入金	200百万円	一年以内償還社債	801 "	社債	1,068 "	その他(固定負債)	990 "	計	3,059百万円
たな卸資産	500百万円																												
有形固定資産	11,293 "																												
計	11,794百万円																												
短期借入金	478百万円																												
社債	7,470 "																												
その他(固定負債)	1,067 "																												
計	9,016百万円																												
有形固定資産	4,979百万円																												
短期借入金	200百万円																												
一年以内償還社債	801 "																												
社債	1,068 "																												
その他(固定負債)	990 "																												
計	3,059百万円																												
2	2 一年以内に返済される長期借入金を含む。	2	2 同左																										
3	3 有形固定資産に対する減価償却累計額 881,423百万円	3	3 有形固定資産に対する減価償却累計額 945,712百万円																										
4	4 非連結子会社及び関連会社に対する主なものは次のとおりである。 投資有価証券 21,426百万円	4	4 非連結子会社及び関連会社に対する主なものは次のとおりである。 投資有価証券 25,577百万円																										
5	<p>偶発債務 銀行借入及びリース債務に対する保証債務</p> <table> <tr> <td>浜松市和地土地区画整理組合</td> <td>2,367百万円</td> </tr> <tr> <td>浜松ケーブルテレビ(株)</td> <td>1,856 "</td> </tr> <tr> <td>Maruti Udyog Ltd.の取引先</td> <td>1,318 "</td> </tr> <tr> <td>その他の会社</td> <td>1,349 "</td> </tr> <tr> <td>従業員住宅資金他</td> <td>180 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7,073百万円</td> </tr> </table>	浜松市和地土地区画整理組合	2,367百万円	浜松ケーブルテレビ(株)	1,856 "	Maruti Udyog Ltd.の取引先	1,318 "	その他の会社	1,349 "	従業員住宅資金他	180 "	計	7,073百万円	5	<p>偶発債務 銀行借入及びリース債務に対する保証債務</p> <table> <tr> <td>Suzuki International Europe G.m.b.H.の販売店</td> <td>2,514百万円</td> </tr> <tr> <td>浜松ケーブルテレビ(株)</td> <td>1,777 "</td> </tr> <tr> <td>浜松市和地土地区画整理組合</td> <td>499 "</td> </tr> <tr> <td>その他の会社等</td> <td>813 "</td> </tr> <tr> <td>従業員住宅資金他</td> <td>143 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,748百万円</td> </tr> </table>	Suzuki International Europe G.m.b.H.の販売店	2,514百万円	浜松ケーブルテレビ(株)	1,777 "	浜松市和地土地区画整理組合	499 "	その他の会社等	813 "	従業員住宅資金他	143 "	計	5,748百万円		
浜松市和地土地区画整理組合	2,367百万円																												
浜松ケーブルテレビ(株)	1,856 "																												
Maruti Udyog Ltd.の取引先	1,318 "																												
その他の会社	1,349 "																												
従業員住宅資金他	180 "																												
計	7,073百万円																												
Suzuki International Europe G.m.b.H.の販売店	2,514百万円																												
浜松ケーブルテレビ(株)	1,777 "																												
浜松市和地土地区画整理組合	499 "																												
その他の会社等	813 "																												
従業員住宅資金他	143 "																												
計	5,748百万円																												
6	6 輸出手形割引高 759百万円	6	6 輸出手形割引高 1,369百万円																										
7	7 5 当社の発行済株式総数 普通株式 542,647,091株	7	7 5 当社の発行済株式総数 普通株式 542,647,091株																										
8	8 6 自己株式の保有数 連結会社及び持分法を適用した関連会社が保有する連結財務諸表提出会社の株式の数は、次のとおりである。 普通株式 10,170,449株	8	8 6 自己株式の保有数 連結会社及び持分法を適用した関連会社が保有する連結財務諸表提出会社の株式の数は、次のとおりである。 普通株式 101,372,626株																										
9	9 当社は効率的な資金調達を行うため、取引銀行6行とコミットメント契約を締結している。 当連結会計年度末におけるコミットメント契約に係る借入未実行残高は、次のとおりである。 コミットメント契約の総額 100,000百万円 借入実行残高 差引額 100,000百万円	9	9 当社は効率的な資金調達を行うため、取引銀行5行とコミットメント契約を締結している。 当連結会計年度末におけるコミットメント契約に係る借入未実行残高は、次のとおりである。 コミットメント契約の総額 150,000百万円 借入実行残高 差引額 150,000百万円																										

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)	
1	1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。	1	1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。
	発送費 58,554百万円		発送費 71,749百万円
	広告宣伝費 63,294 "		広告宣伝費 77,497 "
	販売奨励費 49,975 "		販売奨励費 71,395 "
	販売促進費 66,065 "		販売促進費 66,130 "
	賃金給料 58,988 "		賃金給料 60,983 "
	減価償却費 13,654 "		減価償却費 13,920 "
	研究開発費 86,856 "		研究開発費 89,917 "
	貸倒引当金繰入額 464 "		貸倒引当金繰入額 18 "
	退職給付費用 3,762 "		退職給付費用 4,009 "
	役員退職慰労引当金繰入額 187 "		役員退職慰労引当金繰入額 617 "
	製造物賠償責任引当金繰入額 1,650 "		製造物賠償責任引当金繰入額 1,601 "
	製品保証引当金繰入額 19,938 "		製品保証引当金繰入額 22,507 "
			リサイクル引当金繰入額 956 "
2	2 内訳は次のとおりである。	2	2 内訳は次のとおりである。
	機械装置及び運搬具 380百万円		機械装置及び運搬具 451百万円
	土地 142 "		建物及び構築物 275 "
	工具器具備品他 50 "		土地他 206 "
	計 572百万円		計 933百万円
3	3 内訳は次のとおりである。	3	3 内訳は次のとおりである。
	機械装置及び運搬具 90百万円		機械装置及び運搬具 209百万円
	土地 60 "		工具器具備品他 9 "
	工具器具備品他 49 "		計 218百万円
	計 200百万円		
4	4 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 86,856百万円	4	4 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 89,917百万円
5	5 減損損失 資産グループ化は、事業用資産・貸与資産に区分し、それぞれの事業所単位としている。 パブル経済崩壊に伴う地価の下落等により、主に営業拠点における資産グループの帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上した。 なお、当資産グループの回収可能額は正味売却価額により測定しており、土地については合理的に算定した価額により評価している。 内訳は次のとおりである。		
	土地 3,752百万円		
	その他 21 "		
	計 3,774百万円		

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)																								
<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成17年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">248,679百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券勘定</td> <td style="text-align: right;">79,794 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">328,473百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">55,013 "</td> </tr> <tr> <td>償還期間が3か月を超える債券等</td> <td style="text-align: right;">42,062 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">現金及び現金同等物</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">231,397百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	248,679百万円	有価証券勘定	79,794 "	計	328,473百万円	預入期間が3か月を超える定期預金	55,013 "	償還期間が3か月を超える債券等	42,062 "	現金及び現金同等物	231,397百万円	<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成18年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">182,895百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券勘定</td> <td style="text-align: right;">82,115 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">265,011百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">21,644 "</td> </tr> <tr> <td>償還期間が3か月を超える債券等</td> <td style="text-align: right;">26,743 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">現金及び現金同等物</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">216,623百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	182,895百万円	有価証券勘定	82,115 "	計	265,011百万円	預入期間が3か月を超える定期預金	21,644 "	償還期間が3か月を超える債券等	26,743 "	現金及び現金同等物	216,623百万円
現金及び預金勘定	248,679百万円																								
有価証券勘定	79,794 "																								
計	328,473百万円																								
預入期間が3か月を超える定期預金	55,013 "																								
償還期間が3か月を超える債券等	42,062 "																								
現金及び現金同等物	231,397百万円																								
現金及び預金勘定	182,895百万円																								
有価証券勘定	82,115 "																								
計	265,011百万円																								
預入期間が3か月を超える定期預金	21,644 "																								
償還期間が3か月を超える債券等	26,743 "																								
現金及び現金同等物	216,623百万円																								
<p>2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳</p> <p>連結開始時における資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりである。</p> <p>株式の取得により新たに連結子会社となった会社</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">859百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">1,797 "</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">565 "</td> </tr> <tr> <td>連結調整勘定</td> <td style="text-align: right;">11 "</td> </tr> <tr> <td>関連会社株式 (持分法評価額)</td> <td style="text-align: right;">90 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">株式の取得価額</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">1,989百万円</td> </tr> <tr> <td>新規連結子会社の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">99 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">差引：取得のための支出</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">1,890百万円</td> </tr> </table>	流動資産	859百万円	固定資産	1,797 "	流動負債	565 "	連結調整勘定	11 "	関連会社株式 (持分法評価額)	90 "	株式の取得価額	1,989百万円	新規連結子会社の現金及び現金同等物	99 "	差引：取得のための支出	1,890百万円									
流動資産	859百万円																								
固定資産	1,797 "																								
流動負債	565 "																								
連結調整勘定	11 "																								
関連会社株式 (持分法評価額)	90 "																								
株式の取得価額	1,989百万円																								
新規連結子会社の現金及び現金同等物	99 "																								
差引：取得のための支出	1,890百万円																								

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成16年 4月 1日 至 平成17年 3月31日)				当連結会計年度 (自 平成17年 4月 1日 至 平成18年 3月31日)			
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの 以外のファイナンス・リース取引				リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの 以外のファイナンス・リース取引			
1 借主側				1 借主側			
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額 相当額及び期末残高相当額				(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額 相当額及び期末残高相当額			
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
機械装置及び 運搬具	252	164	88	機械装置及び 運搬具	235	176	59
工具器具備品	518	421	96	工具器具備品	444	338	105
合計	771	585	185	合計	679	514	164
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が 有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いた め、支払利子込み法により算定している。				(注) 同 左			
(2) 未経過リース料期末残高相当額				(2) 未経過リース料期末残高相当額			
1年以内 141百万円				1年以内 131百万円			
1年超 178 "				1年超 156 "			
合計 320百万円				合計 287百万円			
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リー ス料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占め る割合が低いため、支払利子込み法により算定し ている。				(注) 同 左			
(3) 支払リース料及び減価償却費相当額				(3) 支払リース料及び減価償却費相当額			
支払リース料 156百万円				支払リース料 164百万円			
減価償却費相当額 150 "				減価償却費相当額 149 "			
(4) 減価償却費相当額の算定方法				(4) 減価償却費相当額の算定方法			
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする 級数法によっている。				同 左			

前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)				当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)			
2 貸主側				2 貸主側			
(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額及び期末残高				(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額及び期末残高			
	取得価額 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)	期末残高 (百万円)		取得価額 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)	期末残高 (百万円)
機械装置及び 運搬具	653	374	279	機械装置及び 運搬具	836	400	435
(2) 未経過リース料期末残高相当額				(2) 未経過リース料期末残高相当額			
1年以内			123百万円	1年以内			165百万円
1年超			239 "	1年超			408 "
合計			362百万円	合計			573百万円
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高及び見積残存価額の残高の合計額が営業債権の期末残高等に占める割合が低いため、受取利子込み法により算定している。				(注) 同 左			
(3) 受取リース料及び減価償却費				(3) 受取リース料及び減価償却費			
受取リース料			120百万円	受取リース料			164百万円
減価償却費			102 "	減価償却費			183 "
オペレーティング・リース取引				オペレーティング・リース取引			
1 借主側				1 借主側			
未経過リース料				未経過リース料			
1年以内			227百万円	1年以内			224百万円
1年超			340 "	1年超			183 "
合計			567百万円	合計			408百万円
2 貸主側				2 貸主側			
未経過リース料				未経過リース料			
1年以内			46百万円	1年以内			53百万円
1年超			70 "	1年超			36 "
合計			117百万円	合計			90百万円

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成17年3月31日)

1 その他有価証券で時価のあるもの

	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	23,302	57,438	34,136
(2) 債券	28,000	28,058	58
(3) その他	35,929	36,126	197
小計	87,231	121,623	34,391
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式			
(2) 債券	7,000	6,997	2
(3) その他			
小計	7,000	6,997	2
合計	94,232	128,621	34,389

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
104,266	1,210	7

3 時価評価されていない主な有価証券

	連結貸借対照表計上額(百万円)
その他有価証券	
コマーシャル・ペーパー	15,993
非上場株式(店頭売買株式を除く)	22,430

4 その他有価証券のうち満期があるものの連結決算日後における償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 債券				
国債・地方債等				
社債	27,069			
(2) その他	52,724			
合計	79,794			

当連結会計年度(平成18年3月31日)

1 その他有価証券で時価のあるもの

	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
(1) 株式	19,647	82,522	62,874
(2) 債券	3,000	3,017	17
(3) その他	51,846	52,523	676
小計	74,494	138,063	63,569
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
(1) 株式			
(2) 債券	15,000	14,992	7
(3) その他			
小計	15,000	14,992	7
合計	89,494	153,056	63,562

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
98,361	1,845	36

3 時価評価されていない主な有価証券

	連結貸借対照表計上額(百万円)
その他有価証券	
コマーシャル・ペーパー	9,997
非上場株式(店頭売買株式を除く)	16,867
信託受益権	2,759

4 その他有価証券のうち満期があるものの連結決算日後における償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 債券				
国債・地方債等				
社債	14,992			
(2) その他	67,123			
合計	82,115			

(デリバティブ取引関係)

<p>前連結会計年度 (自 平成16年 4月 1日 至 平成17年 3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成17年 4月 1日 至 平成18年 3月31日)</p>
<p>1 取引の状況に関する事項</p> <p>(1) 取引の内容及び利用目的等 当社グループは、通常の営業過程における輸出取引の為替相場の変動によるリスクを回避し、安定的な利益確保を図る目的で為替予約取引を行っている。</p> <p>また、債券の変動金利の受取利息を固定金利に換え、将来の金利市場における変動リスクを回避する目的で、金利スワップ取引を行っている。</p> <p>なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っている。</p> <p>ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用している。なお、為替予約取引については振当処理の要件を満たしているものは振当処理を採用している。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象 外貨建取引(売掛債権、予定取引等)については為替予約取引を、債券については金利スワップ取引を行っている。</p> <p>ヘッジ方針 為替相場及び市場金利の変動によるリスクを回避することを目的とし、対象債権の範囲内でヘッジを行っている。</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法 為替予約取引については、予定取引を含めた外貨建取引において同一金額で同一期日の為替予約を行っているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されており、その判定をもって有効性の判定に代えている。</p> <p>また、金利スワップ取引については、ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フローの変動を完全に相殺するものと想定できるため、その判定をもって有効性の判定に代えている。</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 通貨関連におけるデリバティブ取引については、主としてドル建て及びユーロ建ての売上契約に伴う為替変動リスクをヘッジする目的であるため、外貨建売掛金及び成約高の範囲内で行うこととし、また、金利関連のデリバティブ取引については、債券の受取利息の範囲内での金利変動リスクのヘッジを目的としており、いずれの取引についても投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針である。</p> <p>(3) 取引に係るリスクの内容 為替予約取引及び金利スワップ取引は、為替相場及び市場金利の変動による期待利益の喪失というリスクを有しているが、それぞれ外貨建債権及び債券の受取利息の範囲内での取引であり、実質的なリスクはない。また、取引は全て取引関係のある信用度の高い銀行と行っており、取引上の信用リスクはないと判断している。</p>	<p>1 取引の状況に関する事項</p> <p>(1) 取引の内容及び利用目的等 同 左</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 同 左</p> <p>(3) 取引に係るリスクの内容 同 左</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)</p>
<p>(4) 取引に係るリスク管理体制 為替予約取引についてのリスク管理は主に社内の規程に基づき輸出部門で行っているが、取引があった都度経理部門に報告されており、また、金利関連のデリバティブ取引についてのリスク管理は主に社内の規程に基づき経理部門が行っている。また、デリバティブ取引の状況は定期的に担当役員に報告されている。</p> <p>2 取引の時価等に関する事項 全てヘッジ会計を適用している為、該当事項はない。</p>	<p>(4) 取引に係るリスク管理体制 同 左</p> <p>2 取引の時価等に関する事項 同 左</p>

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社はキャッシュバランス型の企業年金基金制度及び退職一時金制度を、一部の連結子会社は確定給付型の企業年金基金制度及び退職一時金制度を設けている。

2 退職給付債務に関する事項(平成17年3月31日現在)

項目	金額(百万円)
(1) 退職給付債務	113,460
(2) 年金資産	54,799
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2)	58,661
(4) 未認識数理計算上の差異	15,170
(5) 未認識過去勤務債務(債務の減額)	9,739
(6) 退職給付引当金(3) + (4) + (5)	53,230

(注) 1 臨時に支払う割増退職金は含めていない。

2 一部の子会社は、退職給付の算定にあたり、簡便法を採用している。

3 退職給付費用に関する事項

項目	金額(百万円)
(1) 勤務費用	6,100
(2) 利息費用	1,470
(3) 期待運用収益	102
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	1,029
(5) 過去勤務債務の費用処理額	718
(6) 退職給付費用(1) + (2) + (3) + (4) + (5)	7,778
(7) 一部子会社の厚生年金基金脱退に伴う損益	88
(8) 計(6) + (7)	7,689

(注) 簡便法を採用している子会社の退職給付費用は、「(1)勤務費用」に計上している。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(2) 割引率	2.00%
(3) 再評価率	1.50%
(4) 期待運用収益率	0.23% ~ 1.50%
(5) 過去勤務債務の額の処理年数	主に15年 (発生時の従業員の平均残存勤務期間による定額法により按分額を費用処理している。)
(6) 数理計算上の差異の処理年数	主に15年 (発生時の従業員の平均残存勤務期間による定額法により、発生時の翌連結会計年度から費用処理することとしている。)

当連結会計年度(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社はキャッシュバランス型の企業年金基金制度及び退職一時金制度を、一部の連結子会社は確定給付型の企業年金基金制度及び退職一時金制度を設けている。

2 退職給付債務に関する事項(平成18年3月31日現在)

項目	金額(百万円)
(1) 退職給付債務	113,848
(2) 年金資産	57,867
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2)	55,980
(4) 未認識数理計算上の差異	13,403
(5) 未認識過去勤務債務(債務の減額)	9,020
(6) 退職給付引当金(3) + (4) + (5)	51,598

(注) 1 臨時に支払う割増退職金は含めていない。

2 一部の子会社は、退職給付の算定にあたり、簡便法を採用している。

3 退職給付費用に関する事項

項目	金額(百万円)
(1) 勤務費用	6,444
(2) 利息費用	1,472
(3) 期待運用収益	108
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	961
(5) 過去勤務債務の費用処理額	718
(6) 退職給付費用(1) + (2) + (3) + (4) + (5)	8,051

(注) 簡便法を採用している子会社の退職給付費用は、「(1)勤務費用」に計上している。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(2) 割引率	2.00%
(3) 再評価率	1.50%
(4) 期待運用収益率	0.23% ~ 1.50%
(5) 過去勤務債務の額の処理年数	主に15年 (発生時の従業員の平均残存勤務期間による定額法により按分額を費用処理している。)
(6) 数理計算上の差異の処理年数	主に15年 (発生時の従業員の平均残存勤務期間による定額法により、発生時の翌連結会計年度から費用処理することとしている。)

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成17年3月31日)	当連結会計年度 (平成18年3月31日)																																																																
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>諸引当金</td><td style="text-align: right;">35,419百万円</td></tr> <tr><td>減価償却超過</td><td style="text-align: right;">33,769 "</td></tr> <tr><td>未実現利益</td><td style="text-align: right;">19,892 "</td></tr> <tr><td>減損損失等</td><td style="text-align: right;">10,864 "</td></tr> <tr><td>税法上の繰延資産</td><td style="text-align: right;">9,474 "</td></tr> <tr><td>有価証券評価減</td><td style="text-align: right;">8,234 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">57,584 "</td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">175,240百万円</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">13,577百万円</td></tr> <tr><td>連結子会社の時価評価に伴う評価差額</td><td style="text-align: right;">8,090 "</td></tr> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">2,363 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">329 "</td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">24,361百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額 150,879百万円</p> <p>(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれている。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">77,084百万円</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">84,711 "</td></tr> <tr><td>固定負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">10,916 "</td></tr> </table>	諸引当金	35,419百万円	減価償却超過	33,769 "	未実現利益	19,892 "	減損損失等	10,864 "	税法上の繰延資産	9,474 "	有価証券評価減	8,234 "	その他	57,584 "	繰延税金資産計	175,240百万円	その他有価証券評価差額金	13,577百万円	連結子会社の時価評価に伴う評価差額	8,090 "	固定資産圧縮積立金	2,363 "	その他	329 "	繰延税金負債計	24,361百万円	流動資産 - 繰延税金資産	77,084百万円	固定資産 - 繰延税金資産	84,711 "	固定負債 - 繰延税金負債	10,916 "	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>減価償却超過</td><td style="text-align: right;">42,663百万円</td></tr> <tr><td>諸引当金</td><td style="text-align: right;">37,012 "</td></tr> <tr><td>未実現利益</td><td style="text-align: right;">23,565 "</td></tr> <tr><td>減損損失等</td><td style="text-align: right;">10,864 "</td></tr> <tr><td>有価証券評価減</td><td style="text-align: right;">7,193 "</td></tr> <tr><td>税法上の繰延資産</td><td style="text-align: right;">6,778 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">68,068 "</td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">196,146百万円</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">25,196百万円</td></tr> <tr><td>連結子会社の時価評価に伴う評価差額</td><td style="text-align: right;">7,636 "</td></tr> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">2,519 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">539 "</td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">35,891百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額 160,255百万円</p> <p>(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれている。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">95,529百万円</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">73,922 "</td></tr> <tr><td>固定負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">9,196 "</td></tr> </table>	減価償却超過	42,663百万円	諸引当金	37,012 "	未実現利益	23,565 "	減損損失等	10,864 "	有価証券評価減	7,193 "	税法上の繰延資産	6,778 "	その他	68,068 "	繰延税金資産計	196,146百万円	その他有価証券評価差額金	25,196百万円	連結子会社の時価評価に伴う評価差額	7,636 "	固定資産圧縮積立金	2,519 "	その他	539 "	繰延税金負債計	35,891百万円	流動資産 - 繰延税金資産	95,529百万円	固定資産 - 繰延税金資産	73,922 "	固定負債 - 繰延税金負債	9,196 "
諸引当金	35,419百万円																																																																
減価償却超過	33,769 "																																																																
未実現利益	19,892 "																																																																
減損損失等	10,864 "																																																																
税法上の繰延資産	9,474 "																																																																
有価証券評価減	8,234 "																																																																
その他	57,584 "																																																																
繰延税金資産計	175,240百万円																																																																
その他有価証券評価差額金	13,577百万円																																																																
連結子会社の時価評価に伴う評価差額	8,090 "																																																																
固定資産圧縮積立金	2,363 "																																																																
その他	329 "																																																																
繰延税金負債計	24,361百万円																																																																
流動資産 - 繰延税金資産	77,084百万円																																																																
固定資産 - 繰延税金資産	84,711 "																																																																
固定負債 - 繰延税金負債	10,916 "																																																																
減価償却超過	42,663百万円																																																																
諸引当金	37,012 "																																																																
未実現利益	23,565 "																																																																
減損損失等	10,864 "																																																																
有価証券評価減	7,193 "																																																																
税法上の繰延資産	6,778 "																																																																
その他	68,068 "																																																																
繰延税金資産計	196,146百万円																																																																
その他有価証券評価差額金	25,196百万円																																																																
連結子会社の時価評価に伴う評価差額	7,636 "																																																																
固定資産圧縮積立金	2,519 "																																																																
その他	539 "																																																																
繰延税金負債計	35,891百万円																																																																
流動資産 - 繰延税金資産	95,529百万円																																																																
固定資産 - 繰延税金資産	73,922 "																																																																
固定負債 - 繰延税金負債	9,196 "																																																																
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">39.8%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">4.5%</td></tr> <tr><td>持分法利益</td><td style="text-align: right;">1.3 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.5 "</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">33.4%</td></tr> </table>	法定実効税率	39.8%	(調整)		税額控除	4.5%	持分法利益	1.3 "	その他	0.5 "	税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.4%	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">39.8%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">4.1%</td></tr> <tr><td>持分法利益</td><td style="text-align: right;">1.3 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1.7 "</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">32.7%</td></tr> </table>	法定実効税率	39.8%	(調整)		税額控除	4.1%	持分法利益	1.3 "	その他	1.7 "	税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.7%																																								
法定実効税率	39.8%																																																																
(調整)																																																																	
税額控除	4.5%																																																																
持分法利益	1.3 "																																																																
その他	0.5 "																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.4%																																																																
法定実効税率	39.8%																																																																
(調整)																																																																	
税額控除	4.1%																																																																
持分法利益	1.3 "																																																																
その他	1.7 "																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.7%																																																																

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

	二輪車事業 (百万円)	四輪車事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社(百万円)	連結(百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	460,568	1,845,763	59,240	2,365,571		2,365,571
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	460,568	1,845,763	59,240	2,365,571		2,365,571
営業費用	422,416	1,785,622	49,989	2,258,028		2,258,028
営業利益	38,151	60,140	9,251	107,542		107,542
資産、減価償却費、減損 損失及び資本的支出						
資産	244,480	1,083,686	43,107	1,371,275	322,078	1,693,353
減価償却費	15,123	81,028	1,579	97,731		97,731
減損損失	199	3,525	49	3,774		3,774
資本的支出	18,419	115,973	1,656	136,049		136,049

当連結会計年度(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

	二輪車事業 (百万円)	四輪車事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社(百万円)	連結(百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	561,306	2,119,940	65,206	2,746,453		2,746,453
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	561,306	2,119,940	65,206	2,746,453		2,746,453
営業費用	515,375	2,062,012	55,200	2,632,588		2,632,588
営業利益	45,931	57,928	10,005	113,865		113,865
資産、減価償却費及び資本的 支出						
資産	284,816	1,311,647	47,688	1,644,152	205,562	1,849,714
減価償却費	16,287	108,545	1,686	126,520		126,520
資本的支出	29,495	155,803	2,080	187,379		187,379

- (注) 1 事業の区分は、市場及び販売方法の類似性に内部管理上採用している区分を加味した方法によっている。
2 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
二輪車事業	小型二輪自動車、軽二輪自動車、原動機付自転車、バギー
四輪車事業	軽自動車、小型自動車、普通自動車
その他の事業	船外機、雪上車用等エンジン、電動車両、住宅

- 3 資産のうち、「消去又は全社」の項目に含めた全社資産(前連結会計年度322,078百万円、当連結会計年度205,562百万円)の主なものは、当社での余資運用資金(現金及び預金、有価証券等)、長期投資資金(投資有価証券)に係る資産等である。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

	日本 (百万円)	欧州 (百万円)	北米 (百万円)	アジア (百万円)	その他の 地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益								
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	1,143,813	409,605	302,090	483,363	26,698	2,365,571		2,365,571
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	476,073	4,722	1,625	16,699	0	499,121	(499,121)	
計	1,619,887	414,328	303,716	500,062	26,698	2,864,692	(499,121)	2,365,571
営業費用	1,554,233	407,636	299,076	462,781	25,233	2,748,961	(490,932)	2,258,028
営業利益	65,653	6,691	4,639	37,281	1,464	115,731	(8,188)	107,542
資産	863,958	213,612	78,632	287,376	11,259	1,454,839	238,514	1,693,353

当連結会計年度(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

	日本 (百万円)	欧州 (百万円)	北米 (百万円)	アジア (百万円)	その他の 地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益								
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	1,230,148	486,350	391,306	596,420	42,227	2,746,453		2,746,453
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	588,229	5,698	1,578	10,314		605,822	(605,822)	
計	1,818,378	492,049	392,885	606,735	42,227	3,352,276	(605,822)	2,746,453
営業費用	1,757,602	484,281	385,663	561,348	39,708	3,228,604	(596,015)	2,632,588
営業利益	60,776	7,768	7,222	45,386	2,518	123,672	(9,806)	113,865
資産	950,037	237,427	97,232	401,592	18,818	1,705,108	144,606	1,849,714

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州 ……ハンガリー、英国、ドイツ

(2) 北米 ……米国、カナダ

(3) アジア ……インド、インドネシア、パキスタン

(4) その他の地域……オーストラリア、コロンビア

3 資産のうち、「消去又は全社」の項目に含めた全社資産(前連結会計年度322,078百万円、当連結会計年度205,562百万円)の主なものは、当社での余資運用資金(現金及び預金、有価証券等)、長期投資資金(投資有価証券)に係る資産等である。

【海外売上高】

前連結会計年度(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

	欧州	北米	アジア	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	495,989	324,244	526,570	125,701	1,472,505
連結売上高(百万円)					2,365,571
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	21.0	13.7	22.3	5.3	62.2

当連結会計年度(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

	欧州	北米	アジア	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	587,429	411,327	647,695	165,496	1,811,948
連結売上高(百万円)					2,746,453
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	21.4	15.0	23.6	6.0	66.0

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

2 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 欧州ハンガリー、英国、ドイツ
- (2) 北米米国、カナダ
- (3) アジアインド、インドネシア、中国
- (4) その他の地域.....オーストラリア、コロンビア

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高である。

【関連当事者との取引】

前連結会計年度(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

役員及び個人主要株主等

属性	氏名	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合 (%)	関係内容		取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
役員	鈴木 修			当社代表取締役会長、 (財)スズキ財団理事長	(被所有) 0.1			寄付	325		
				当社代表取締役会長、 (財)スズキ教育文化財 団理事長	(被所有) 0.1			寄付	113		
				当社代表取締役会長、 (財)静岡国際園芸博覧 会協会会長	(被所有) 0.1			賃貸料 収入	352		

(注) 取引金額には消費税等を含んでいない。

当連結会計年度(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

役員及び個人主要株主等

属性	氏名	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合 (%)	関係内容		取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
役員	鈴木 修			当社代表取締役会長、 (財)スズキ財団理事長	(被所有) 0.1			寄付	125		
				当社代表取締役会長、 (財)スズキ教育文化財 団理事長	(被所有) 0.1			寄付	113		

(注) 取引金額には消費税等を含んでいない。

(1 株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,398円78銭	1株当たり純資産額	1,397円11銭
1株当たり当期純利益	112円94銭	1株当たり当期純利益	125円64銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	109円86銭	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	122円14銭

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎

	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
当期純利益(百万円)	60,506	65,945
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳(百万円)		
利益処分による役員賞与金	200	260
普通株主に帰属しない金額(百万円)	200	260
普通株式に係る当期純利益(百万円)	60,306	65,685
普通株式の期中平均株式数(千株)	533,983	522,825
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に用いられた当期純利益調整額の主要な内訳(百万円)		
社債管理手数料(税額相当額控除後)	3	3
当期純利益調整額(百万円)	3	3
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式増加数の主要な内訳(千株)		
転換社債	15,000	14,999
普通株式増加数(千株)	15,000	14,999
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
<p>当社は、欧州主要子会社を対象とした資金統合及びグループ金融を目的として、子会社を設立する予定である。その概要は次のとおりである。</p> <p>名称 Suzuki Finance Europe B.V. 所在地 オランダ アムステルダム市 代表者 小野 浩孝(当社取締役) BTM Trust (Holland)B.V. 資本金 2億ユーロ (平成17年6月に1億ユーロを出資し、残額1億ユーロは平成18年3月までに出資を完了する予定である。)</p> <p>取得株式数 400,000株 出資比率 100% 設立時期 平成17年6月(予定)</p>	<p>当社は、平成18年6月2日開催の取締役会決議により、130%コールオプション条項付第4回無担保転換社債型新株予約権付社債(転換社債型新株予約権付社債間限定同順位特約付)を発行した。その概要は次のとおりである。</p> <p>(1) 発行総額 150,000,000,000円</p> <p>(2) 発行価額 額面100円につき金100円</p> <p>(3) 発行価格 額面100円につき金102.5円</p> <p>(4) 利率 利息は付さない。</p> <p>(5) 償還金額 額面100円につき金100円</p> <p>(6) 償還期限 平成25年3月29日</p> <p>(7) 新株予約権に関する事項 新株予約権の目的となる株式の種類 当社普通株式 発行する新株予約権の総数 30,000個 転換価格 1株当たり3,054円(当初) 行使期間 平成18年8月1日から平成25年3月28日まで</p> <p>(8) 払込期日(発行日) 平成18年6月27日</p> <p>(9) 担保 無し。</p> <p>(10) 資金の用途 全額設備資金及び設備資金のための関係会社への投融資に充当する予定である。</p> <p>(11) 130%コールオプション条項 当社普通株式の株価がある20連続取引日にわたり転換価額の130%以上であった場合、当社は平成21年8月1日以降いつでも未償還の本社債の全部を繰上償還することができる。この場合の償還金額は額面100円につき金100円とする。</p>

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
スズキ(株)	第3回無担保転換社債 (注1)	平成 14.3.22	30,000	29,991		なし	平成 22.3.31
Maruti Udyog Ltd.	第1回担保付社債 [インドルピー建] (注2)	平成 12.7.24	4,980 [2,000百万ルピー]		11.20	あり	平成 19.7.24
Maruti Udyog Ltd.	第2回担保付社債 [インドルピー建] (注2)	平成 12.12.4	2,490 [1,000百万ルピー]	1,869 (801) [700百万ルピー] ([300百万ルピー])	9.00	あり	平成 19.12.4
合計			37,470	31,860 (801)			

(注) 1 転換社債に関する記載は、次のとおりである。

銘柄	転換請求期間	転換価額(円)	発行株式	資本組入額(円/株)
第3回無担保転換社債	平成14.5.1～平成22.3.30	2,000.00	普通株式	1,000.00

- 2 当該社債は、外国において発行したものであるため「前期末残高」及び「当期末残高」欄に外貨建の金額を[付記]している。
- 3 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額である。
- 4 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりである。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
801	1,068		29,991	

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	85,253	126,115	2.67	
1年以内に返済予定の長期借入金	502			
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	500	40,535	6.09	平成20.4~ 平成25.1
その他の有利子負債 長期預り保証金	7,641	8,188	2.65	なし
計	93,898	174,839		

(注) 1 長期借入金及びその他の有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりである。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金		2,329	9,551	9,551
その他の有利子負債				

2 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載している。

(2) 【その他】

該当事項なし。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

区分	注記 番号	前事業年度 (平成17年3月31日)		当事業年度 (平成18年3月31日)		
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
(資産の部)						
流動資産						
1		現金及び預金	162,018		46,209	
2		受取手形			569	
3	2	売掛金	173,301		184,791	
4		有価証券	43,062		27,749	
5		製品	49,708		74,001	
6		半製品	3,099		3,189	
7		原材料	1,107		1,176	
8		仕掛品	13,152		15,572	
9		貯蔵品	4,223		4,715	
10		前払費用	1,126		1,089	
11		繰延税金資産	43,280		52,114	
12		短期貸付金	30,348		30,355	
13		関係会社短期貸付金	32,112		32,763	
14	2	未収入金	27,817		36,528	
15	7	その他	5,743		8,015	
		貸倒引当金	255		114	
		流動資産合計	589,848	53.7	518,728	47.9
固定資産						
1		有形固定資産				
	1	(1) 建物	41,196		44,324	
		(2) 構築物	12,128		12,494	
		(3) 機械及び装置	31,327		49,617	
		(4) 車両運搬具	638		573	
		(5) 工具器具備品	16,184		16,541	
	1	(6) 土地	74,415		75,829	
		(7) 建設仮勘定	5,496		14,480	
		有形固定資産合計	181,388	16.5	213,861	19.8
2		無形固定資産	40	0.0	35	0.0
3		投資その他の資産				
		(1) 投資有価証券	86,820		101,399	
		(2) 関係会社株式	135,182		153,490	
		(3) 出資金	264		213	
		(4) 関係会社出資金	27,344		32,661	
		(5) 長期貸付金	4,184		4,126	
		(6) 長期前払費用	228		106	
		(7) 繰延税金資産	87,612		72,531	
		(8) その他	1,568		1,553	
		株式評価引当金	16,397		16,354	
		貸倒引当金	13		11	
		投資その他の資産合計	326,795	29.8	349,718	32.3
		固定資産合計	508,224	46.3	563,615	52.1
		資産合計	1,098,073	100.0	1,082,344	100.0

区分	注記 番号	前事業年度 (平成17年3月31日)		当事業年度 (平成18年3月31日)		
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
(負債の部)						
流動負債						
1	2		329,641		427,461	
2					20,000	
3			20,741		44,150	
4	2		87,250		91,396	
5			11,651		14,104	
6			1,904		4,871	
7	2		10,707		18,426	
8			19,558		21,741	
9			135		135	
流動負債合計			481,590	43.8	642,288	59.4
固定負債						
1			30,000		29,991	
2			26,950		24,962	
3			1,192		1,799	
4			9,107		9,366	
5					956	
6	1		8,339		8,815	
7			3		36	
固定負債合計			75,592	6.9	75,928	7.0
負債合計			557,183	50.7	718,216	66.4
(資本の部)						
資本金						
資本剰余金			120,210	11.0	120,210	11.1
1	4	126,577		126,577		
2						
(1)		0		2,614		
資本剰余金合計			126,578	11.5	129,192	11.9
利益剰余金						
1			8,269		8,269	
2						
(1)		600		600		
(2)		1,200		1,200		
(3)	6	128		76		
(4)	6	319		450		
(5)	6	1,931		2,018		
(6)		237,350	241,529	267,350	271,695	
3			38,878		39,951	
利益剰余金合計			288,677	26.3	319,916	29.5
その他有価証券評価差額金			20,425	1.9	37,715	3.5
自己株式			15,001	1.4	242,907	22.4
資本合計			540,890	49.3	364,127	33.6
負債資本合計			1,098,073	100.0	1,082,344	100.0

【損益計算書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成16年 4月 1日 至 平成17年 3月31日)		当事業年度 (自 平成17年 4月 1日 至 平成18年 3月31日)			
		金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)		
売上高	1		1,481,632	100.0		1,690,169	100.0
売上原価							
1 期首製品たな卸高		44,168				49,708	
2 当期製品製造原価	6	1,146,080				1,331,863	
合計		1,190,249				1,381,572	
3 他勘定振替高	2	497				441	
4 期末製品たな卸高		49,708	1,140,043	76.9	74,001	1,307,129	77.3
売上総利益			341,588	23.1		383,039	22.7
販売費及び一般管理費	3						
1 販売費		198,675				241,019	
2 一般管理費	6	90,077	288,753	19.5	94,538	335,557	19.9
営業利益			52,835	3.6		47,482	2.8
営業外収益							
1 受取利息	1	2,504				2,955	
2 有価証券利息		1,022				989	
3 受取配当金	1	2,214				2,136	
4 貸倒引当金戻入額		12				143	
5 賃貸料収入	1	2,240				2,117	
6 雑収入		1,584	9,579	0.6	1,498	9,840	0.6
営業外費用							
1 支払利息		178				229	
2 社債利息		31					
3 貸与資産減価償却費		1,213				1,013	
4 株式評価引当金繰入額		1,228				11	
5 有価証券評価損		3,302				1,307	
6 雑支出		3,523	9,478	0.6	2,581	5,143	0.3
経常利益			52,936	3.6		52,179	3.1
特別利益							
1 投資有価証券売却益		1,176				1,813	
2 固定資産売却益	4	369				181	
3 その他特別利益		126	1,671	0.1		1,995	0.1
特別損失							
1 投資有価証券売却損		7				36	
2 固定資産売却損	5	128				16	
3 減損損失	7	3,754	3,890	0.3		53	0.0
税引前当期純利益			50,718	3.4		54,121	3.2
法人税、住民税及び事業税		21,970				22,010	
法人税等調整額		6,999	14,970	1.0	5,159	16,850	1.0
当期純利益			35,747	2.4		37,271	2.2
前期繰越利益			5,262			5,317	
中間配当額			2,131			2,637	
当期末処分利益			38,878			39,951	

製造原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成16年 4月 1日 至 平成17年 3月31日)		当事業年度 (自 平成17年 4月 1日 至 平成18年 3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費	1	1,047,008	84.6	1,202,113	84.3
労務費		70,329	5.7	73,975	5.2
経費		119,997	9.7	150,594	10.5
当期製造費用		1,237,335	100.0	1,426,682	100.0
期首半製品及び 仕掛品たな卸高		12,360		16,252	
合計		1,249,696		1,442,935	
期末半製品及び 仕掛品たな卸高		16,252		18,761	
他勘定振替高	2	87,363		92,310	
当期製品製造原価		1,146,080		1,331,863	

(注) 1 主な内訳は次のとおりである。

項目	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)
減価償却費	44,700	57,236

2 他勘定振替高の内訳は次のとおりである。

項目	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)
固定資産へ	3,295	3,922
販売費及び一般管理費へ	84,067	88,387
合計	87,363	92,310

(原価計算の方法)

当社の原価計算の方法は、組別工程別総合原価計算であり、標準原価を設定し、期中の受払いはすべて標準原価をもって行い、期末に原価差額の調整を行っている。

【利益処分計算書】

区分	注記 番号	前事業年度 (平成17年6月29日)		当事業年度 (平成18年6月29日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
当期末処分利益			38,878		39,951
任意積立金取崩額					
1 海外投資等損失準備金 取崩額	1	52		51	
2 特別償却準備金取崩額	1	69		96	
3 固定資産圧縮積立金 取崩額	1	21	142	36	184
合計			39,020		40,135
利益処分数額					
1 配当金		3,195		2,647	
2 役員賞与金		200		260	
(うち監査役賞与金)		(25)		(26)	
3 任意積立金					
(1) 特別償却準備金	1	200		612	
(2) 固定資産圧縮積立金	1	107			
(3) 別途積立金		30,000	33,703	31,000	34,520
次期繰越利益			5,317		5,615

- (注) 1 上記()内の日付は株主総会承認日である。
2 1 租税特別措置法等の規定に基づくものである。

重要な会計方針

項目	前事業年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当事業年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
1 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 同 左 (2) その他有価証券 時価のあるもの 同 左 時価のないもの 同 左
2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法	デリバティブ 時価法	デリバティブ 同 左
3 たな卸資産の評価基準及び評価方法	(1) 製品、半製品、原材料及び仕掛品 総平均法による低価法 (2) 貯蔵品 最終仕入原価法による低価法	(1) 製品、半製品、原材料及び仕掛品 同 左 (2) 貯蔵品 同 左
4 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用している。なお、主な耐用年数は以下のとおりである。 建物 3～50年 機械及び装置 3～12年 また、機械及び装置と工具器具備品は、製造部門において、稼働時間に応じた当社独自の増加償却を実施している。 (2) 無形固定資産 定額法によっている。 (3) 長期前払費用 均等償却によっている。	(1) 有形固定資産 同 左 (2) 無形固定資産 同 左 (3) 長期前払費用 同 左
5 繰延資産の処理方法	試験研究費は、支出時に全額費用として処理している。	同 左
6 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。	同 左
7 引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。 (2) 株式評価引当金 時価のない有価証券及び出資金の損失に備えて、帳簿価額と実質価額との差額を計上している。 (3) 製品保証引当金 販売した製品のアフターサービスに対する費用の支出に備えるため、原則として保証書の約款に従い過去の実績を基礎にして計上している。	(1) 貸倒引当金 同 左 (2) 株式評価引当金 同 左 (3) 製品保証引当金 同 左

項目	前事業年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当事業年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
	<p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。</p> <p>過去勤務債務については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により按分した額を費用処理している。</p> <p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により按分した額を、それぞれの発生の翌事業年度から費用処理することとしている。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規則に基づき、期末要支給額を計上している。</p> <p>(6) 製造物賠償責任引当金 北米向け輸出製品に対して、「製造物賠償責任保険」(PL保険)で補填されない損害賠償金の支払いに備えるため、過去の実績を基礎に会社負担見込額を算出し計上している。</p>	<p>(4) 退職給付引当金 同 左</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 同 左</p> <p>(6) 製造物賠償責任引当金 同 左</p> <p>(7) リサイクル引当金 当社製品のリサイクル費用に備えるため、販売実績に基づいてリサイクル費用見込額を計上している。</p>
8 リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。	同 左
9 ヘッジ会計の方法	(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用している。なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしているものは振当処理を採用している。	(1) ヘッジ会計の方法 同 左

項目	前事業年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当事業年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
	<p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 外貨建取引(売掛債権、予定取引等)の為替相場変動リスクに対して為替予約取引を、債券の受取利息の範囲内の金利変動リスクに対して金利スワップ取引をヘッジ手段として用いている。</p> <p>(3) ヘッジ方針 為替相場及び市場金利の変動によるリスクを回避することを目的としている。ヘッジ取引のうち、為替予約取引についてのリスク管理は社内の規程に基づき輸出部門で行っているが、取引があった都度経理部門に報告されており、また、金利スワップについてのリスク管理は社内の規程に基づき経理部門が行っている。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 為替予約取引については、予定取引を含めた外貨建取引において同一金額で同一期日の為替予約を行っているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されており、その判定をもって有効性の判定に代えている。</p> <p>また、金利スワップ取引については、ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フローの変動を完全に相殺するものと想定できるため、その判定をもって有効性の判定に代えている。</p>	<p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同 左</p> <p>(3) ヘッジ方針 同 左</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 同 左</p>
10 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっている。	消費税等の会計処理 同 左

表示方法の変更

<p>前事業年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)</p>
<p>注記事項(損益計算書関係)</p> <p>「3 3 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額」において「販売奨励費」「販売促進費」「広告宣伝費」の経営管理方法を変更したことに伴い、当事業年度より、費目分類を変更している。</p> <p>なお、当事業年度において、従来と同一の方法によった場合、「販売奨励費」は74,645百万円、「広告宣伝費」は30,765百万円である。</p>	

注記事項
(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成17年3月31日)		当事業年度 (平成18年3月31日)																													
1	<p>1 担保資産及び担保付債務 担保に供している資産は次のとおりである。</p> <table> <tr> <td>建物</td> <td>387百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>97 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>484百万円</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりである。</p> <table> <tr> <td>長期預り保証金</td> <td>581百万円</td> </tr> </table>	建物	387百万円	土地	97 "	計	484百万円	長期預り保証金	581百万円	1	<p>1 担保資産及び担保付債務 担保に供している資産は次のとおりである。</p> <table> <tr> <td>建物</td> <td>362百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>97 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>459百万円</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりである。</p> <table> <tr> <td>長期預り保証金</td> <td>541百万円</td> </tr> </table>	建物	362百万円	土地	97 "	計	459百万円	長期預り保証金	541百万円												
建物	387百万円																														
土地	97 "																														
計	484百万円																														
長期預り保証金	581百万円																														
建物	362百万円																														
土地	97 "																														
計	459百万円																														
長期預り保証金	541百万円																														
2	<p>2 このうち、関係会社に対するものが、次のとおり含まれている。</p> <table> <tr> <td>売掛金</td> <td>131,029百万円</td> </tr> <tr> <td>未収入金</td> <td>19,312 "</td> </tr> <tr> <td>買掛金</td> <td>21,891 "</td> </tr> <tr> <td>未払費用</td> <td>25,301 "</td> </tr> </table>	売掛金	131,029百万円	未収入金	19,312 "	買掛金	21,891 "	未払費用	25,301 "	2	<p>2 このうち、関係会社に対するものが、次のとおり含まれている。</p> <table> <tr> <td>売掛金</td> <td>124,084百万円</td> </tr> <tr> <td>未収入金</td> <td>24,149 "</td> </tr> <tr> <td>買掛金</td> <td>24,537 "</td> </tr> <tr> <td>未払費用</td> <td>31,023 "</td> </tr> <tr> <td>預り金</td> <td>14,705 "</td> </tr> </table>	売掛金	124,084百万円	未収入金	24,149 "	買掛金	24,537 "	未払費用	31,023 "	預り金	14,705 "										
売掛金	131,029百万円																														
未収入金	19,312 "																														
買掛金	21,891 "																														
未払費用	25,301 "																														
売掛金	124,084百万円																														
未収入金	24,149 "																														
買掛金	24,537 "																														
未払費用	31,023 "																														
預り金	14,705 "																														
3	<p>3 有形固定資産に対する減価償却累計額は、588,444百万円である。</p>	3	<p>3 有形固定資産に対する減価償却累計額は、602,726百万円である。</p>																												
4	<p>4 授權株式数 普通株式 1,500,000,000株 定款にて、株式の消却が行われた場合には、これに相当する株式数を減ずる旨を定めている。 発行済株式総数 普通株式 542,647,091株</p>	4	<p>4 授權株式数 普通株式 1,500,000,000株 定款にて、株式の消却が行われた場合には、これに相当する株式数を減ずる旨を定めている。 なお、平成18年6月29日開催の定時株主総会において定款の一部変更が行われ、当該定めは削除された。 発行済株式総数 普通株式 542,647,091株</p>																												
5	<p>5 自己株式 当社が保有する自己株式の数は、普通株式10,117,911株である。</p>	5	<p>5 自己株式 当社が保有する自己株式の数は、普通株式101,320,088株である。</p>																												
6	<p>6 租税特別措置法等の規定によるものである。</p>	6	<p>6 租税特別措置法等の規定によるものである。</p>																												
7	<p>7 偶発債務 銀行借入に対する保証債務</p> <table> <tr> <td>浜松ケーブルテレビ(株)</td> <td>1,856百万円</td> </tr> <tr> <td>Suzuki Motorcycles</td> <td>260 "</td> </tr> <tr> <td>Pakistan Ltd.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の会社</td> <td>550 "</td> </tr> <tr> <td>従業員住宅資金</td> <td>9 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,675百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 外貨建保証債務残高は、142,499千パキスタンルピーである。</p>	浜松ケーブルテレビ(株)	1,856百万円	Suzuki Motorcycles	260 "	Pakistan Ltd.		その他の会社	550 "	従業員住宅資金	9 "	計	2,675百万円	7	<p>7 偶発債務 銀行借入に対する保証債務</p> <table> <tr> <td>Suzuki Powertrain</td> <td>22,319百万円</td> </tr> <tr> <td>India Ltd.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Maruti Suzuki Automobiles</td> <td>14,648 "</td> </tr> <tr> <td>India Ltd.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>浜松ケーブルテレビ(株)</td> <td>1,777 "</td> </tr> <tr> <td>その他の会社</td> <td>470 "</td> </tr> <tr> <td>従業員住宅資金</td> <td>4 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>39,219百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 外貨建保証債務残高は、314,700千U.S.ドルである。</p>	Suzuki Powertrain	22,319百万円	India Ltd.		Maruti Suzuki Automobiles	14,648 "	India Ltd.		浜松ケーブルテレビ(株)	1,777 "	その他の会社	470 "	従業員住宅資金	4 "	計	39,219百万円
浜松ケーブルテレビ(株)	1,856百万円																														
Suzuki Motorcycles	260 "																														
Pakistan Ltd.																															
その他の会社	550 "																														
従業員住宅資金	9 "																														
計	2,675百万円																														
Suzuki Powertrain	22,319百万円																														
India Ltd.																															
Maruti Suzuki Automobiles	14,648 "																														
India Ltd.																															
浜松ケーブルテレビ(株)	1,777 "																														
その他の会社	470 "																														
従業員住宅資金	4 "																														
計	39,219百万円																														

前事業年度 (平成17年3月31日)	当事業年度 (平成18年3月31日)												
<p>8 配当制限 商法施行規則第124条第3号に規定する資産に時価を付したことにより増加した純資産額は20,425百万円である。</p>	<p>8 配当制限 商法施行規則第124条第3号に規定する資産に時価を付したことにより増加した純資産額は37,715百万円である。</p>												
<p>9 輸出手形割引高 860百万円</p>	<p>9 輸出手形割引高 1,570百万円</p>												
<p>10 7このうち仮払消費税等と仮受消費税等の相殺後の未収還付消費税等5,266百万円が含まれている。</p>	<p>10 7このうち仮払消費税等と仮受消費税等の相殺後の未収還付消費税等7,666百万円が含まれている。</p>												
<p>11 当社は効率的な資金調達を行うため、取引銀行6行とコミットメント契約を締結している。 当事業年度末におけるコミットメント契約に係る借入未実行残高は、次のとおりである。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">コミットメント契約の総額</td> <td style="text-align: right;">100,000百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">_____</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right;">100,000百万円</td> </tr> </table>	コミットメント契約の総額	100,000百万円	借入実行残高	_____	差引額	100,000百万円	<p>11 当社は効率的な資金調達を行うため、取引銀行5行とコミットメント契約を締結している。 当事業年度末におけるコミットメント契約に係る借入未実行残高は、次のとおりである。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">コミットメント契約の総額</td> <td style="text-align: right;">150,000百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">_____</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right;">150,000百万円</td> </tr> </table>	コミットメント契約の総額	150,000百万円	借入実行残高	_____	差引額	150,000百万円
コミットメント契約の総額	100,000百万円												
借入実行残高	_____												
差引額	100,000百万円												
コミットメント契約の総額	150,000百万円												
借入実行残高	_____												
差引額	150,000百万円												

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成16年 4月 1日 至 平成17年 3月31日)		当事業年度 (自 平成17年 4月 1日 至 平成18年 3月31日)	
1	1 このうちには、関係会社に対するものが、次のとおり含まれている。 売上高 1,037,246百万円 賃貸料収入 1,684 " 受取利息 1,381 " 受取配当金 1,346 "	1	1 このうちには、関係会社に対するものが、次のとおり含まれている。 売上高 1,197,590百万円 賃貸料収入 1,605 " 受取利息 1,308 " 受取配当金 1,230 "
2	2 内訳は次のとおりである。 固定資産へ 289百万円 販売費及び一般管理費へ 120 " 営業外費用へ 87 " 計 497百万円	2	2 内訳は次のとおりである。 固定資産へ 303百万円 販売費及び一般管理費へ 110 " 営業外費用へ 27 " 計 441百万円
3	3 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりである。 販売費 発送費 44,920百万円 販売奨励費 51,245 " 販売促進費 34,848 " 広告宣伝費 19,192 " 賃金給料 4,564 " 退職給付費用 477 " 製造物賠償責任引当金繰入額 1,650 " 減価償却費 951 " 製品保証引当金繰入額 19,558 " 一般管理費 賃金給料 1,746百万円 研究開発費 84,865 " 退職給付費用 150 " 役員退職慰労引当金繰入額 175 " 減価償却費 348 "	3	3 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりである。 販売費 発送費 55,924百万円 販売奨励費 60,127 " 販売促進費 32,860 " 広告宣伝費 21,648 " 賃金給料 4,321 " 退職給付費用 495 " 製造物賠償責任引当金繰入額 1,601 " 減価償却費 681 " 製品保証引当金繰入額 21,741 " リサイクル引当金繰入額 956 " 一般管理費 賃金給料 1,905百万円 研究開発費 87,816 " 退職給付費用 137 " 役員退職慰労引当金繰入額 614 " 減価償却費 431 "
4	4 内訳は次のとおりである。 機械及び装置 320百万円 土地 35 " 建物 8 " 工具器具備品他 4 " 計 369百万円	4	4 内訳は次のとおりである。 機械及び装置 116百万円 建物 62 " 工具器具備品他 3 " 計 181百万円
5	5 内訳は次のとおりである。 土地 75百万円 工具器具備品他 52 " 計 128百万円	5	5 内訳は次のとおりである。 機械及び装置 14百万円 建物他 2 " 計 16百万円

前事業年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)		当事業年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)	
6	6 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 84,865百万円	6	6 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 87,816百万円
7	7 減損損失 資産グループ化は、事業用資産・貸与資産に区分し、それぞれの事業所単位としている。 パブル経済崩壊に伴う地価の下落等により、主に営業拠点として貸与している資産グループの帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上した。 なお、当資産グループの回収可能額は正味売却価額により測定しており、土地については合理的に算定した価額により評価している。 内訳は次のとおりである。 土地 3,752百万円 その他 2 〃 計 3,754百万円		

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)		当事業年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)	
オペレーティング・リース取引 借主側 未経過リース料		オペレーティング・リース取引 借主側 未経過リース料	
1年以内	11百万円	1年以内	9百万円
1年超	16 〃	1年超	13 〃
合計	27百万円	合計	23百万円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

前事業年度(平成17年3月31日)

	貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
子会社株式	18,849	164,298	145,448
関連会社株式	1,543	19,720	18,176

当事業年度(平成18年3月31日)

	貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
子会社株式	18,849	365,607	346,757
関連会社株式	1,543	19,263	17,719

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成17年3月31日)		当事業年度 (平成18年3月31日)	
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (繰延税金資産)		1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (繰延税金資産)	
減価償却超過	34,956百万円	減価償却超過	35,711百万円
諸引当金	29,019 "	諸引当金	29,921 "
有価証券評価減	27,376 "	有価証券評価減	24,608 "
減損損失等	10,341 "	減損損失等	10,341 "
その他	44,353 "	その他	50,909 "
繰延税金資産合計	146,047百万円	繰延税金資産合計	151,492百万円
(繰延税金負債)		(繰延税金負債)	
その他有価証券評価差額金	13,475百万円	その他有価証券評価差額金	24,885百万円
その他	1,679 "	その他	1,961 "
繰延税金負債合計	15,154百万円	繰延税金負債合計	26,847百万円
繰延税金資産の純額	130,893百万円	繰延税金資産の純額	124,645百万円
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の内訳		2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の内訳	
法定実効税率	39.8%	法定実効税率	39.8%
(調整)		(調整)	
税額控除	9.5%	税額控除	9.2%
その他	0.8 "	その他	0.5 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.5%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.1%

(1 株当たり情報)

前事業年度 (自 平成16年 4月 1日 至 平成17年 3月31日)		当事業年度 (自 平成17年 4月 1日 至 平成18年 3月31日)	
1株当たり純資産額	1,015円33銭	1株当たり純資産額	824円48銭
1株当たり当期純利益	66円56銭	1株当たり当期純利益	70円78銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	64円75銭	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	68円82銭

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前事業年度 (自 平成16年 4月 1日 至 平成17年 3月31日)	当事業年度 (自 平成17年 4月 1日 至 平成18年 3月31日)
当期純利益(百万円)	35,747	37,271
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳(百万円)		
利益処分による役員賞与金	200	260
普通株主に帰属しない金額(百万円)	200	260
普通株式に係る当期純利益(百万円)	35,547	37,011
普通株式の期中平均株式数(千株)	534,035	522,877
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に用いられた当期純利益調整額の主要な内訳(百万円)		
社債管理手数料(税額相当額控除後)	3	3
当期純利益調整額(百万円)	3	3
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式増加数の主要な内訳(千株)		
転換社債	15,000	14,999
普通株式増加数(千株)	15,000	14,999
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

<p>前事業年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)</p>
<p>当社は、欧州主要子会社を対象とした資金統合及びグループ金融を目的として、子会社を設立する予定である。その概要は次のとおりである。</p> <p>名称 Suzuki Finance Europe B.V. 所在地 オランダ アムステルダム市 代表者 小野 浩孝(当社取締役) BTM Trust (Holland)B.V. 資本金 2億ユーロ (平成17年6月に1億ユーロを出資し、残額1億ユーロは平成18年3月までに出资を完了する予定である。) 取得株式数 400,000株 出資比率 100% 設立時期 平成17年6月(予定)</p>	<p>当社は、平成18年6月2日開催の取締役会決議により、130%コールオプション条項付第4回無担保転換社債型新株予約権付社債(転換社債型新株予約権付社債間限定同順位特約付)を発行した。その概要は次のとおりである。</p> <p>(1) 発行総額 150,000,000,000円 (2) 発行価額 額面100円につき金100円 (3) 発行価格 額面100円につき金102.5円 (4) 利率 利息は付さない。 (5) 償還金額 額面100円につき金100円 (6) 償還期限 平成25年3月29日 (7) 新株予約権に関する事項 新株予約権の目的となる株式の種類 当社普通株式 発行する新株予約権の総数 30,000個 転換価格 1株当たり3,054円(当初) 行使期間 平成18年8月1日から平成25年3月28日まで (8) 払込期日(発行日) 平成18年6月27日 (9) 担保 無し。 (10) 資金の用途 全額設備資金及び設備資金のための関係会社への投融資に充当する予定である。 (11) 130%コールオプション条項 当社普通株式の株価がある20連続取引日にわたり転換価額の130%以上であった場合、当社は平成21年8月1日以降いつでも未償還の本社債の全部を繰上償還することができる。この場合の償還金額は額面100円につき金100円とする。</p>

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	9,931	17,876
		富士重工業(株)	13,690,000	9,473
		(株)りそなホールディングス	23,134	9,369
		(株)静岡銀行	6,365,800	7,562
		(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ	29,866	5,196
		UFJ Capital Finance 4 Limited (Series-A)	500	5,000
		UFJ Capital Finance 2 Limited	400	4,000
		三井トラスト・ホールディングス(株)	1,462,500	2,516
		(株)デンソー	540,851	2,514
		GM DAEWOO Auto & Technology Company	28,414,946	2,349
		新光証券(株)	3,416,665	2,231
		(株)セントラルファイナンス	2,000,000	2,200
		(株)みずほフィナンシャルグループ	2,248	2,165
		(株)アーレスティ	565,767	1,708
		(株)ユニバンス	1,937,200	1,590
		General Motors Corp.	600,000	1,499
		スタンレー電気(株)	518,364	1,301
		その他(120銘柄)	27,648,099	19,824
計			87,226,273	98,381

【債券】

銘柄		券面総額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)	
有価証券	その他 有価証券	三井住友銀リース(株) 短期社債	5,000	4,999
		Hitachi International Treasury Ltd. 短期社債	5,000	4,996
		(株)商船三井 短期社債	2,000	1,999
		Toshiba Capital(Asia)Ltd. 短期社債	2,000	1,998
		その他短期社債(1銘柄)	1,000	1,000
		みずほ証券(株) コマーシャル・ペーパー	5,000	4,999
		オリックス(株) コマーシャル・ペーパー	5,000	4,999
		小計	25,000	24,990
投資 有価証券	その他 有価証券	BTM(Curacao)Holdings N.V. 劣後債	3,000	3,017
		小計	3,000	3,017
計		28,000	28,008	

【その他】

銘柄		券面総額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)	
有価証券	その他 有価証券	信託受益権(11銘柄)	2,762	2,759
計		2,762	2,759	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	124,857	7,416	1,761	130,512	86,187	3,825	44,324
構築物	42,437	1,921	266	44,092	31,597	1,497	12,494
機械及び装置	355,765	53,990	26,323	383,432	333,814	35,148	49,617
車両運搬具	2,278	525	488	2,315	1,742	304	573
工具器具備品	164,581	20,867	19,523	165,925	149,384	18,579	16,541
土地	74,415	1,468	55	75,829			75,829
建設仮勘定	5,496	40,574	31,590	14,480			14,480
有形固定資産計	769,832	126,764	80,008	816,587	602,726	59,356	213,861
無形固定資産				100	64	5	35
無形固定資産計				100	64	5	35
長期前払費用	457	25	23	459	352	147	106
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 1 当期増加額の主なものは次のとおりである。

機械及び装置	溶接機械装置	15,311百万円
	運搬・昇降及び貨物取扱装置	11,722 "
	産業機械	5,768 "
	金属工作機械	5,514 "
工具器具備品	プレス型	8,597 "
建設仮勘定	工具器具備品	18,873 "
	機械及び装置	13,689 "
	建物	6,371 "

2 当期減少額の主なものは次のとおりである。

機械及び装置	溶接機械装置	10,836百万円
工具器具備品	プレス型	7,269 "

3 無形固定資産の金額が、資産の総額の1%以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略している。

【資本金等明細表】

区分		前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
資本金(百万円)		120,210			120,210
資本金のうち 既発行株式	普通株式 (株)	(542,647,091)	()	()	(542,647,091)
	普通株式 (百万円)	120,210			120,210
	計 (株)	(542,647,091)	()	()	(542,647,091)
	計 (百万円)	120,210			120,210
資本準備金及び その他 資本剰余金	資本準備金				
	株式払込剰余金 (百万円)	76,193			76,193
	合併差益 (百万円)	354			354
	転換社債転換差益 (百万円)	22,251			22,251
	新株引受権付社債 権利行使差益 (百万円)	27,778			27,778
	その他資本剰余金				
自己株式処分差益 (百万円)	0	2,615	1	2,614	
計 (百万円)	126,578	2,615	1	129,192	
利益準備金及び 任意積立金	利益準備金 (百万円)	8,269			8,269
	任意積立金				
	特別償却積立金 (百万円)	600			600
	配当準備積立金 (百万円)	1,200			1,200
	海外投資等損失 準備金 (百万円)	128		52	76
	特別償却準備金 (百万円)	319	200	69	450
	固定資産圧縮 積立金 (百万円)	1,931	107	21	2,018
	別途積立金 (百万円)	237,350	30,000		267,350
計 (百万円)	249,799	30,308	142	279,965	

- (注) 1 当期末における自己株式は 101,320,088株である。
 2 自己株式処分差益の増減は、自己株式の処分によるものである。
 3 任意積立金の増減は、前期決算の利益処分によるものである。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	268	125		268	125
株式評価引当金	16,397	16,354	54	16,343	16,354
製品保証引当金	19,558	21,741	19,558		21,741
役員退職慰労引当金	1,192	614	6		1,799
製造物賠償責任引当金	9,107	1,601	1,341		9,366
リサイクル引当金		956			956

- (注) 貸倒引当金及び株式評価引当金の「当期減少額(その他)」欄は、洗替計算による戻入れ額である。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	56
預金	
当座、普通預金	6,924
定期預金	39,227
計	46,152
合計	46,209

ロ．受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
住商オートリース(株)	86
三井住友銀オートリース(株)	70
東京オートリース(株)	59
昭和オートレンタリース(株)	52
興銀オートリース(株)	48
その他	251
合計	569

期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成18年4月	188
5月	166
6月	207
7月	4
8月	1
合計	569

八．売掛金
相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
Suzuki Italia S.P.A.	11,072
伊藤忠商事(株)	10,132
CAMI Automotive Inc.	7,695
日産自動車(株)	6,512
Suzuki GB PLC	5,923
その他	143,454
合計	184,791

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円) (A)	当期発生高 (百万円) (B)	当期回収高 (百万円) (C)	次期繰越高 (百万円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
173,301	1,764,586	1,753,096	184,791	90.5	37.0

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しているが、上記金額には消費税等が含まれている。

二．たな卸資産

区分	品名	金額(百万円)
製品	二輪車 他	32,761
	四輪車	41,239
	合計	74,001
半製品	販売部品	3,189
原材料	普通鋼 他	1,176
仕掛品	二輪車	2,946
	四輪車	11,115
	その他	1,510
	合計	15,572
貯蔵品	消耗工具 他	4,715

固定資産
イ．関係会社株式

銘柄	金額(百万円)
Magyar Suzuki Ltd.	32,844
PT Indomobil Suzuki International	23,734
Maruti Udyog Ltd.	18,849
Suzuki Finance Europe B.V.	13,231
American Suzuki Motor Corp.	9,968
その他	54,862
合計	153,490

ロ．繰延税金資産

内容	金額(百万円)
2 財務諸表等(1)財務諸表 注記事項(税効果会計関係)参照	72,531

流動負債
イ．買掛金
相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)デンソー	20,445
(株)メタルワン	12,483
アイシン・エイ・ダブリュ(株)	11,582
ジャトコ(株)	9,951
住友商事(株)	7,801
その他	365,197
合計	427,461

ロ．未払費用

区分	金額(百万円)
販売会社に対する未払費用	53,367
未払賞与	10,281
未払賃金給料	5,500
その他	22,247
合計	91,396

(3) 【その他】

該当事項なし。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	1株券、10株券、50株券、100株券、500株券、1,000株券、10,000株券、100,000株券、1,000,000株券、100株未満の株数を表示した株券 当社取締役会の定めによる株数を表示した株券
中間配当基準日	9月30日
1単元の株式数	100株
株式の名義書換え	
取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社名古屋支店証券代行部
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所	中央三井信託銀行株式会社及び日本証券代行株式会社の本支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社名古屋支店証券代行部
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所	中央三井信託銀行株式会社及び日本証券代行株式会社の本支店
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	東京都において発行される日本経済新聞 1
株主に対する特典	株主優待制度 2 (1)対象株主 毎年3月31日現在の株主名簿及び実質株主に記載された1単元(100株)以上保有株主 (2)優待内容 当社の欧州生産拠点マジャールズズキ社の所在国ハンガリーの産品であり、当社が輸入販売している「ハンガリーアカシアはちみつ・ジャム詰合せ」

(注) 1 1 平成18年6月29日開催の定時株主総会決議により定款の一部変更が行われ、当社の公告方法は次のとおりとなった。

「公告方法は、電子公告とする。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子広告による公告をすることができない場合は、東京都において発行される日本経済新聞に掲載して行う。」

なお、電子公告は当社ホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりである。

<http://www.suzuki.co.jp/ir/index.html>

2 2 当社は、平成17年12月5日開催の取締役会の決議により、株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、特に個人株主の皆様の増加促進と当社製品の一層のご愛用を願って株主優待制度を新設した。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はない。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出している。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第139期）（自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日）平成17年6月29日関東財務局長に提出

(2) 半期報告書及びその添付書類

（第140期中）（自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日）平成17年12月22日関東財務局長に提出

(3) 臨時報告書

平成17年6月17日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）に基づく臨時報告書の提出である。

平成18年3月7日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）に基づく臨時報告書の提出である。

(4) 有価証券届出書（新株予約権付社債の発行）及びその添付書類

平成18年6月2日関東財務局長に提出

(5) 有価証券届出書の訂正届出書及びその添付書類

平成18年6月12日関東財務局長に提出

(6) 発行登録書（普通社債）及びその添付書類

平成17年7月21日関東財務局長に提出

(7) 訂正発行登録書

平成17年12月22日関東財務局長に提出

(8) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自 平成17年3月1日 至 平成17年3月31日）平成17年4月13日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成17年4月1日 至 平成17年4月30日）平成17年5月10日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成17年5月1日 至 平成17年5月31日）平成17年6月7日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成17年6月1日 至 平成17年6月30日）平成17年7月11日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成18年3月1日 至 平成18年3月31日）平成18年4月13日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成18年4月1日 至 平成18年4月30日）平成18年5月12日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成18年5月1日 至 平成17年5月31日）平成18年6月9日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の監査報告書

平成17年 6月29日

スズキ株式会社
取締役会 御中

清明監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 今村 了

代表社員
業務執行社員 公認会計士 今村 敬

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているスズキ株式会社の平成16年4月1日から平成17年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結剰余金計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スズキ株式会社及び連結子会社の平成17年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管している。

独立監査人の監査報告書

平成18年6月29日

スズキ株式会社
取締役会 御中

清明監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 今村 敬

代表社員
業務執行社員 公認会計士 岩間 昭

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているスズキ株式会社の平成17年4月1日から平成18年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結剰余金計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スズキ株式会社及び連結子会社の平成18年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成18年6月2日開催の取締役会決議により、130%コールオプション条項付第4回無担保転換社債型新株予約権付社債を発行した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管している。

独立監査人の監査報告書

平成17年6月29日

スズキ株式会社
取締役会 御中

清明監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 今村 了

代表社員
業務執行社員 公認会計士 今村 敬

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているスズキ株式会社の平成16年4月1日から平成17年3月31日までの第139期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、利益処分計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スズキ株式会社の平成17年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管している。

独立監査人の監査報告書

平成18年6月29日

スズキ株式会社
取締役会 御中

清明監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 今村 敬

代表社員
業務執行社員 公認会計士 岩間 昭

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているスズキ株式会社の平成17年4月1日から平成18年3月31日までの第140期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、利益処分計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スズキ株式会社の平成18年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成18年6月2日開催の取締役会決議により、130%コールオプション条項付第4回無担保転換社債型新株予約権付社債を発行した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管している。